

平成26年9月15日発行 ライセンスメイト 第1巻238号通巻564号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

成就するまで継続する

インターネット生放送番組 スタジオ日本 日曜討論

<http://touron.l-mate.net>

(毎週日曜日10:00~12:30)

発行所 株式会社 日本教育開発

ひまわり学生運動(太陽花學運)

「中台兩岸サービス貿易協定」推進に反対する台湾の学生が日本の国会に相当する立法院の議場を占拠(平成26年3月16日)。総統府前の広場は、学生を支持する市民で溢れた(主催者発表50万人)。学生らは非暴力抗争を堅持し、整然とした民主化運動を展開した。(Photo by 台湾CAPA)

LICENSE MATE

特集 日曜討論

- 1 太陽花學運－島嶼天光
- 2 スタジオ日本
日曜討論番組を支える会
- 3 祝辞
- 4 ごあいさつ
- 7 定期総会・記念講演会・懇親会

- 9 年末総会・新会員歓迎会
- 11 シリーズ紹介
- 32 支える会の活動と実績
- 33 スタッフの声
- 34 ご支援ありがとうございます
- 35 支える会
- 37 「支える会」のあゆみ
- 38 番組に出演して
- 45 リスナーの声

太陽花學運－島嶼天光 (ひまわり学生運動－この島の夜明け)

東日本大震災後、台湾から日本に寄せられた義捐金は官民合わせて250億円を超えるといわれています。尖閣諸島周辺の領海侵入を繰返す中国、史実に基づかない対日批判を世界中で繰り広げる韓国が目立つ東アジアの中で、その親日ぶりは際立ち、日本にとってかけがえない存在といえる。

そんな「親日・台湾」を馬英九總統が進める中国との「サービス貿易協定」が揺るがした。「台湾経済に侵食し、中台統一につなげるつもりだ」と警戒感が高まり、大勢の学生が反対し、立法院(国会に相当)を3月18日から約3週間にわたって占拠した。

協定反対の動きは、10万人以上の市民が總統府前でデモ行進をするなど大きなうねりとなった。その背景には「中華民族の偉大な復興」を掲げる習近平体制の中国に呑み込

まれてしまうのではないかとの危機感があり、海外で学ぶ留学生達までもが、台湾に一時帰郷し、運動に参加した。

台湾在日福岡留学生会の会長で、早稲田大学大学院情報生産システム研究科に通う林紀全君、交換留学生として九州大学で学ぶ台湾大学の許彩誠君も多くの仲間と運動に参加した。



平成26年5月18日から6回シリーズで放送された「中共の台湾攻略を阻止せよ－中台兩岸サービス



貿易協定とひまわり学生運動」は多くの皆様からの反響を得て無事終了した。このシリーズにも出演した台湾留学生の両名が「産経新聞」紙上に10段組み特集「親日台湾はいま?」で大きく報道された。「ひまわり学生運動」は日本のマスコミではほとんど報道されなかったが、台湾の学生諸君は東洋制覇をたくらむ中国共産党の企みを見事に挫いてくれた。

「支える会」では今後の彼らの活躍に期待するとともに、彼らの活動を陰ながら支援していきたいと思う。



「インターネット生放送番組」

好評配信中!
(毎週日曜日10:00~12:30)

スタジオ日本「日曜討論」



http://touron.l-mate.net
(エール)

ブラウザのアドレスバーに上記URLを入力して番組ホームページにアクセスして下さい。



ソーシャルストリーム (facebook, twitter) を使って番組にコメントをリアルタイムでお寄せいただけます。

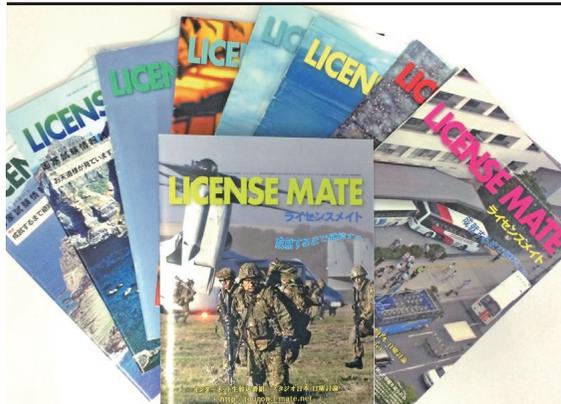


第1回放送 (FM時代) からの放送内容をアーカイブでご視聴いただけます。

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

平成15年10月の放送開始以来、この番組に出演されたリスナーの皆様を中心に設立されたのが「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」です。当会では、この番組に協力していただける新会員を広く募集しております。入会ご希望の方は当会事務局までお気軽にご連絡ください。詳しい案内資料をお送りいたします。

季刊誌ライセンスメイトによる特集
番組の発展と支援の輪を拡げてきた毎年毎年の集大成作業



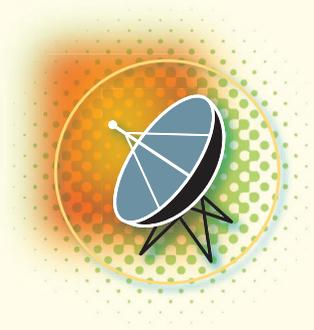
『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』の皆様へ
毎月送られる「かわら版」と出演者に送られるCD



〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階
TEL 092-721-0101 FAX 092-725-3190 (年中無休)



衆議院議員
おに き まこと
鬼木 誠



知る権利を国民の手に

「スタジオ日本日曜討論」の放送が12年目を迎えられました事を、心よりお慶び申し上げます。平成15年の放送開始以来、毎週日曜日に休むことなく放送を続けておられ放送回数は600回に届こうとしています。この福岡の地で保守が正論を主張できる場を提供し続けているスタジオ日本の活動に敬意を表しますと共に、番組関係者のご尽力に深く感謝申し上げます。

私は昨年12月に「スタジオ日本日曜討論」に「マスコミを日本人の手に取り戻す道」というテーマで三度目の出演をさせて頂きました。当時は特定秘密保護法についての恣意的な報道が、世論を反対に誘導しようとしておりました。余談ではありますが集团的自衛権の解釈変更の閣議決定についても、同じような手法が使われ世論をミスリードしようとしているように思います。そんななか今年も予算委員会の第二分科会で、日本の表現の自由はどこまで自由なのかというテーマで質問を致しました。表現の自由とは事実と異なる事を報道することも認められるものなのか？真実を報道しない、偏向報道をすることにより、国民の知る権利を阻害していないか？報道機関においても権利には義務が、自由には責任が伴うべきではないかと問題提起を致しました。

主権者である国民が重要な課題・論点を正しく知ることが「知る権利」であり、マスコミが知らせたいことを知らせる権利ではないのです。マスコミの影響力はいまだ強大ですが一方でインターネットの登場により、状況も少しずつではありますが変わってきているとも感じています。昨年の予算委員会第二分科会での公共放送の在り方についての質問や今回の質問もそうでしたが、今までであれば衆目に晒されることのなかった分科会での質疑がインターネットで拡散され反響が全国どころか在外邦人からも寄せられるようになりました。また私も出演させて頂いたスタジオ日本日曜討論のような保守側からの発信が、徐々に広がりつつあるからです。

戦後70年を間もなく迎えますが、放送と教育は反日・自虐史観に染められてきました。放送と教育を日本人の手に取り戻す戦いは、やっと緒をついたばかりです。長く厳しい活動になりますがこの日本という風土を育ててくれた先人の遺徳を守り、次の世代にこの素晴らしい国を受け継いでいかなければなりません。そのためにも日曜討論に関わる皆様と共に、これからも日本の国益を守り誠心を尽くしてまいります所存です。

月日のたつのは誠に早いもので、あと4ヶ月もすれば、われわれは昭和20年の終戦から70年の節目にあたる年を迎えます。

今を遡ること69年前、我が国は有史以来初めての敗北を喫し、外国軍隊による占領統治という屈辱的な経験をしました。昭和16年12月、わが国は自存自衛のため米英二国に宣戦を布告し、決然起って大東亜戦争に突入しました。その後、3年と9ヶ月に及ぶ国家国民の総力を挙げた戦いにもかかわらず我が国は敗れました。しかし、昭和18年11月の大東亜会議における共同宣言にもとづく亜細亜解放のための戦いは、燎原の火となって再び消え入ることはありませんでした。西暦1492年、西洋人コロンブスによる北米大陸発見から450年にわたる西欧列強の世界支配は、皇軍によるシンガポール陥落(昭和17年)をもって永遠に潰えたのです。戦争目的からいえば大東亜戦争ほど勝利した戦いはなかったのです。かつての差別大国である米国の大統領に黒人が選ばれたことも元を正せば我が国の先達が人種平等と民族解放を掲げて戦った大東亜戦争の波及の証ではないでしょうか。

終戦70年という記念すべき年である平成27年に私たちがなすべきことは何といっても戦死者の御霊を慰めることです。今日の我が国の平和と安定やアジアの自存自立は、かつて祖国の防衛と大東亜解放のために一丸となって戦いに赴き、戦陣に斃れた先輩諸氏の勲があったればこそだからです。わが国の国民すべてが彼らの戦いに感謝し、その勇気を称えるために、英霊の言葉をご家庭に掲げていただけたら、靖國の杜の神々もどんなに喜ばれることでしょうか。彼らは自分の声に耳を傾け共感してくれる人を求めています。ぬくもりを探しています。なぜ自分は戦ったのか、何のために戦ったのか、を後世の私たちに必死に伝えようとしています。どうか70年前の日本人の声を貴方様のご家庭に届けさせていただけませんか。そして彼らが成し遂げた世界史的偉業を彼らの遺影に語りかけていただけませんか。本来は政府が学校が企業が、そしてマスコミが先陣切ってやらなければならない仕事ですが、スタジオ日本はこの戦線でも日本を取り戻してゆく所存です。倍旧のご支援、ご協力をお願いする次第です。

安倍政権も発足以来1年半が経過しました。安倍晋三首相に我々が期待しているのは最近の政治が蔑にしてきた正しい国家観にもとづく政治理念と国益の追求です。戦後の日本は国家であることをやめて社会にすぎなくなったとの評言は戦後日本の政治を的確に表現するものですが、冷戦時代には世界的な東西対立構造のなかでそのボロが露呈する事もありませんでした。しかし、ソ連崩壊によるパラダイムシフトは、我が国の国家観喪失と自虐史観は見事なまでに現実政治に毒花を咲かせました。そして政治と社会の指導層の戦前世代から戦後世代への交替がそれに拍車をかけました。首相靖國参拝中止、村山談話、河野談話、慰安婦問題、中韓土下座外交など他の国では有り得ない無残な状況が出現しています。

安倍首相は昨年12月26日漸く就任1年目にして第一次安倍政権では実現できなかった靖國参拝を果たしました。今回は中韓は例の通りの反応でしたが、アメリカオバマ政権が「失望」と表明しました。アメリカ側が靖國参拝に異を唱えたのは過去になかったことです。しかし、安倍首相は一度靖國神社を参拝した以上今年も必ず参拝するでしょう。内政干渉により止めたとなれば安倍さんは首相としての信念と力量を問われ求心力を一拳に失うでしょう。アベノミクスは序盤は上手く進み消費税増税もなんとか乗り切り、内閣支持率が高止まりしているのも経済が好転していることが大きく、これが安倍さんの安全保障政策、歴史認識問題などで安倍色を進める原動力となっています。このアベノミクスも安倍首相の経済政策の改革へのリーダーシップに掛っており、もし靖國神社参拝断念でそのリーダーシップに陰りが出ると安倍政権は存続すら危うくなります。村山談話と河野談話は継承すると明言したことに我々は失望しましたが、河野談話も見直しをしないと明言した一方で、成立の経過の検証結果が公表されたことは成果と思います。これにより河野談話の不当性が明かになる事は事実ですので、この流れを押し進めて河野談話の無力化を実現しなければなりません。

安倍政権の誕生により我が国の政治風景も良い方向に向かっています。我が日曜討論と安倍政権の目指すものは殆ど同じです。これからも国益を追求し日本を取り戻すために全力を尽くしたい思います。



(専)ライセンスカレッジ理事長

こすけ いさむらう
小菅 亥三郎

終戦70周年には 大東亜戦争勝利の 報告をしよう



(医)香月内科医院理事長

かつ き よういち
香月 洋一

正しい国家観に もとづく政治理念と 国益の追求を



伊藤メディアリテラシー研究所
所長

いとう つよし
伊藤 侑

日曜討論よ、 勁草たれ

集団的自衛権は保持するが、行使できないという文章ほど非論理的な悪文はない。権利の保持と行使は、現実の社会では実はセットだからである。日本の政治家や官僚はこのような日本語を生み出して素知らぬ顔をして恥じることを知らない。せめて「権利は保持しているが、行使は一部分制限されるよ」というのなら分かるのにと常々思っていたら、安倍さんがやってくれた。まるで「王様は裸だ!」と言ってくれた子供のように。もともとが無理筋だっただけに、洪滞をぬけて高速道路のど真ん中を走る車のように速い、速い。与党の公明党は振り落とされないようにしがみついているのが関の山のようなのだ。

さて予想どおり、朝日新聞は社を挙げてアンチ安倍一色に紙面を塗り上げてきた。当初は「解釈改憲は邪道だ。どうしても行使したいなら憲法改正を経てからにしろ」と反旗を翻していたが、形勢利あらずと見たか、共産党の率いる民間組織「九条の会」の意見をそのまま引き写して「戦争のできる国へ」というキャンペーンに転じた。つまり当初の手続き論は反対のための反対だったことがバレたというわけだ。今や毎朝「それ、戦争だ。やれ、戦争だ」と悲鳴を上げているから、読者こそいい迷惑である。

最近、朝日に極めつけの記事が出た。週刊誌には頻繁に出てきたが、そんな馬鹿な記事が朝日に出るなどということは予想もしなかった。「集団的自衛権の行使は徴兵制につながる」というものだ。本当に戦争ができる国になったら、そうは思っていなかった自衛隊員が「話が違う」と言って辞め始める。一方で自衛隊員になるものが減る。よって徴兵しなければ自衛隊は持たない。・・・風が吹いたら桶屋が儲かるたぐいの話だ。このような与太話が載るようじゃ、朝日の断末魔も近いのか。

第一に国を守ることに命を懸け、宣誓を済ませて、一旦緩急あればと覚悟をきめている自衛隊員やそのご家族に失礼な話だ。本来なら個人の尊厳に傷をつけて訴えられても仕方のない記事だ。朝日は謝れ。れっきとした主権国家で集団的自衛権を持っていない国が二つある。わが国とスイスである。ならば大方の国が戦争に巻き込まれ、徴兵制度に移行していくはずである。しかし欧米や東南アジアは安定しており、戦争もそれほどなく、志願制度に転じているのが大勢である。スイスは反対に「国民皆兵」を採用している。朝日は嘘を平気で書く新聞になって久しいが、毒が体中に回って自覚症状がないのであろう。だから、断末魔と書いた。ならばこそ日曜討論の草の根ジャーナリズムの勁(つよ)さに期待したい。



九州大学大学院准教授

せ てる ひさ
施 光 恒

激動の時代の 道標「日曜討論」

『日曜討論』は平成15年に番組が開始されましたので、すでに10年を超えたわけです。大手スポンサーがついているわけでも、何らかの公的機関によって運営されているわけでもない当番組が、これほど長く、またゆるぎない信念に基づき運営されているのは大変素晴らしいことです。番組を支える皆様のご尽力の賜物にほかなりません。

民主党政権が終わりほっとしたのもつかの間、安倍自民党政権の政策は玉石混交です。外交や安全保障などはさすがに首肯するものが多いのですが、経済政策には疑問を感じる部分も決して少なくありません。新自由主義(市場主義)の影響が残念ながら強く、本当に日本の文化や伝統、国民生活の安寧を大切にしているのか疑わしい政策も散見されます。

安倍政権の経済政策を見ていると、日本国民の生活の長期的安寧よりも、外国人投資家の短期的な評価のほうを気にしているものが多いように思われます。外国人家政婦の受け入れ推進、配偶者控除の見直しなどは、保守の基盤たる家庭の価値を壊すものです。TPP推進、道州制の提案、農業への市場原理の導入なども地域社会の存立を危うくします。日本の伝統文化を支え、伝える第一の基盤は、家庭と地域社会です。家庭と地域社会を軽視する保守などありえません。解雇規制や労働時間規制の緩和などの労働法制の見直し、医療への市場原理の導入を目指す混合診療の拡大、やみくもな英語偏重・「グローバル化」偏重の教育改革も、国民生活の基盤を破壊します。安倍政権で重用されている竹中平蔵氏などはこれを「岩盤規制の打破」などと勇ましい表面的な表現でごまかすのでしょうか、医療、雇用、教育、インフラなどの国民生活の基盤をグローバルな投資家や企業に明け渡し、そこでビジネスさせ儲けさせる政策のようにみえてしかたありません。冷戦体制の終焉後、20年以上経過しました。従来の「保守」「革新」の図式は曖昧になり、米国は頼りにならなくなり、東アジア情勢も激変しつつあります。こうした混沌の時代に、冷戦期の残像にとらわれ、批判の力を失った既存のマスコミ報道にはほとんど期待できません。『日曜討論』が、国民生活の現実から、そして日本の長期的な安寧と繁栄を願う真の保守の立場から、激動の時代を乗り切るための確固とした道標の役割を今後いっそう果たしていくことを願っております。

私ども福岡教育連盟は昭和47年「福岡県高等学校新教職員組合(新高教組)」として発足し、「すべての子どもをわが子として」をスローガンとして、「日本の歴史と伝統、文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を養う教育の実践」を綱領の一つに掲げ、教育本然の姿の実現と真の公教育の実現を目指して活動している教育正常化のための教職員団体です。

教育界においてはめまぐるしく制度改革が行われています。しかし、ここで押さえておくべきは第二次安倍政権における教育改革は戦後体制を色濃く残す教育制度を根本から変え、まさに日本を取り戻すための「教育再生」を目指しているということです。まず、いじめ問題を喫緊の解決すべき課題とし、道徳教育の充実が図られました。教師の意識改革はこれからであり、反対する勢力も依然として存在しますが、文部科学省で従来の「心のノート」の改訂版として「私たちの道徳」というすぐれた教材もでき、先人、偉人の生き方に学ぶ内容がしっかりと強調されています。来年度から実施となる教育委員会制度改革や領土問題をきちんと子供達に教えるための学習指導要領解説の改訂等、軌を一にするものであると考えます。

現在の「歴史」をめぐる情報戦や中国の覇権拡大にいかにして立ち向かうかという問題、拉致問題の解決、そして集団的自衛権や憲法改正をめぐる議論などを考えるとき、まず問われるべきは国家の自立に向けた私たちの意識の在り様なのではないかと強く思います。

第14次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加させていただいた折に、台湾で「日本精神」を身につけた方々が、「私は教育勅語で教育を受けた」ということを誇らしく語られていました。教壇に立つ者の使命として、国家の縦軸を見据えて、先人の精神的な豊かさを取り戻すとともに、正しい歴史観を育成していく必要性を痛感した時でした。教育から国家の自立を支える基盤をつくらなければならないと考えます。

日曜討論のこれまでの歩みに敬意を表するとともに、今後も我が国の再生のために正論を発信し続けていかれることを強く望んでいます。

わが国を取り巻く国際環境は、今や大きく変化しています。その最大の要因は中国の驚異的な軍拡であり、国防費は26年前に比べて実に40倍という巨大な軍事国家に変貌しています。その軍事力を背景に南シナ海や東シナ海で覇権主義的行動を進めており、ベトナムやフィリピン、インドネシアなどの国々と争いが続いています。もし南シナ海が中国の掌中に陥れば、中東から8割以上の石油や天然ガスが運ばれてわが国の経済を支えているシーレーンは遮断され、国家的な危機を迎えます。将来南シナ海が公海として存在するか否かは、わが国の存亡にも関わってきます。よって、安倍首相が「力による現状変更は許さず、国際法の遵守」を国際社会に訴え、広く理解を求めているのは当然であります。しかし当事者である中国一わが国の3倍前後という軍事費を擁する国家にそのことを履行させるためには、従来のように責任を他に転嫁して無視する態度を取ることが予想され、わが国一国では厳しく、そこで米国、豪州、東南アジア諸国連合、インドなど価値観を共有する国々と連携して対応することが極めて重要であります。7月1日に発表した安倍首相の集団的自衛権の解釈変更も、このような時代の要請に基づいた結論であります。

昭和21年、当時の吉田茂首相は、帝国議会で現行の日本国憲法の制定に当たって第9条について「個別的自衛権を含む一切の自衛権を放棄した」と説明しました。ところが朝鮮戦争が勃発し、サンフランシスコ講和条約を締結したあとの昭和26年10月の答弁では、「無責任な侵略主義が跳梁する国際現状において、独立と自由を回復したあかつき、軍備なき日本が、他の自由主義国家とともに集団的防衛の方法を講ずるほかないことは当然である」「国が独立した以上、自衛権は欠くべからざるものであり、当然の権利である。この自衛権発動の結果として、安全保障条約を結ぶのは当然のことである」と答弁しています。日本国憲法の条文は一字一句変わっていないにも関わらず、およそ180度の大転換ともいべき解釈の変更が行われました。当初は交戦権の否認、戦力の不保持でありながら、5年後には自衛権の保持、警察予備隊(後の自衛隊)の創設、集団的自衛権の容認と変化しました。そこには現実に対応して国家国民を守らなければならない政府の重責があり、「憲法護って国災厄至る」では全く以て本末転倒だからです。

ところがこのような史実を顧みず、大半のマスコミは「首相は徴兵制を敷こうとしている」「戦争を望んでいる」等の悪意と虚偽に満ちた、煽情的な報道が連日為され、国民をミスリードしています。今わが国が真剣に考えなければならないのは、占領軍に押し付けられた現行憲法はわが国の自衛権をも否定するところから出発しており、国家の安全と国民の生命護持のためには改正は必至であることです。従って、このような世相であるだけに「日曜討論」番組の役割は一層重大であり、国民を善導しわが国の行く道を照射する番組として益々の活躍を心より祈念致します。



福岡教育連盟執行委員長

やかべたいすけ
矢ヶ部 大輔

国家の自立は
教育から



日本会議福岡事務局長

かしぐりかつとし
梶栗 勝敏

憲法改正へ国民を
善導する番組と
して活躍を期待



『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

定期総会・記念講演会・懇親会

平成25年8月25日(日)「スタジオ日本日曜討論番組を支える会」(以下支える会)の第7回定期総会・記念講演会・懇親会が福岡市中央区のテルラホールで開催された。

58名の特別会員(法人・個人)や正会員、番組会員の参加があった。

第1部の定期総会では、参加者全員による国旗敬礼、国歌斉唱の後、九州大学大学院准教授の施光恒氏が開会宣言に立ち、「日曜討論番組は戦後レジームからの脱却を目指す大きな力となっている」と今年で放送開始10年を迎える番組の重要性を指摘した。

続いて世話人を代表して、小菅亥三郎代表世話人が挨拶に立ち、「ちょうど10年前の10月5日から『男女共同参画を考える』という6回シリーズの単発としてこの番組は始まった。当時、福岡コミュニティ放送(FM局)の渕上社長から申し出が

あったのがきっかけであった。その時の放送が非常に評判になって市役所に何千というパブリックコメントが寄せられ、番組が継続されることになった」と番組開始の経緯を説明した。また「休みなく毎週日曜日に番組を継続するという事は非常に大変なことである。その後、副代表世話人の香月洋一氏など多くの会員の皆さんが番組に参画下さり、また、放送を継続するためのスポンサーとして、この『支える会』が有志の方々により設立された」と「支える会」設立の趣旨を述べた。「日曜討論番組」は放送局の変更、閉局という不測の事態もあったが、インターネット生放送番組として継続できているのも「支える会」の存在が大きいと挨拶した。

続いて来賓として水城四郎福岡市議会議員にご挨拶いただいた。その後、小菅代表世話人が全会一

致で議長に選出され議事が進行されていった。副代表世話人の香月洋一氏より平成24年度活動報告ならびに平成25年度活動計画の発表があり、更なる会員拡大と放送内容の充実、アーカイブや集大成作業の継続を推進すると提案があった。役員選任では今回、古賀誠氏(世話人)、高山由香里(営業)が退任し、新たに鬼木誠氏(衆議員議員)と小山和伸氏(神奈川大学教授)が顧問に、川口武壽氏(㈱ライフハーベスト代表取締役社長)が世話人に、井上久美子(㈱日本教育開発)が営業に就任した。

満場一致の拍手により全ての議事が承認され、世話人の矢ヶ部大輔氏(福岡教育連盟執行委員長)の閉会の辞により滞りなく総会は終了した。

第2部の記念講演会では、葛目浩一先生(新聞「アイデンティティ」主幹)による「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革—東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」と題する記念講演が行われた。

講演会終了後には、葛目先生をお囲みして、年中無休で頑張っておられるコメンテーターやスタッフの労をねぎらい、恒例の懇親会が和やかな雰囲気の中、盛大に行われた。

尚、総会・記念講演会の模様は、特別報道番組として番組ホームページのアーカイブでご覧いただけます。(http://touron.l-mate.net/)





第 8 回

定期総会・記念講演会・懇親会

平成15年10月の放送開始以来、多くの憂国の士の皆様にご支援を賜わり、平成17年8月に「日曜討論番組を支える会」を設立することができました。爾来、会員数も着実に

増加し、番組を物心両面から下支える団体になりました。

そこでこの度、会員の皆様にご活動と収支の報告をさせていただくため、下記の通り定期総会・講演会・

懇親会を開催いたします。

ご多忙中の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご臨席賜りますようご案内申し上げます。

- 国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし -
スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

定期総会・記念講演会・懇親会

演題 目から鱗のホントの話
— 今、“当たり前”を言語化する必要性 —



講師
山口 敏昭 先生
日本時事評論 論説委員

どなたでも
ご参加
できます。

平成 26 年
8月24日(日)

12 時 30 分開場、13 時開会
定期総会 13:00 ~ 14:15
記念講演会 14:30 ~ 15:30
懇親会 16:00 ~ 17:30(予定)

テルラホール[天神テルラ 4 階] 福岡市中央区渡辺通 5-25-18
TEL(092)732-4441

参加費 講演会 500円(会員無料) 懇親会 4,000円

(お問い合わせ・お申し込み)

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

TEL(092)721-0101 FAX(092)725-3190
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-3-38



『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

第5回 年末総会・新会員歓迎会

スタジオ日本「日曜討論番組を支える会」(以下支える会)の第5回年末総会・新会員歓迎会が平成25年12月20日(金)、福岡市中央区赤坂の京懐石「松幸」で開催された。

会合には正会員や特別会員(法人・個人)50名と同会の顧問で文部科学副大臣の西川京子・衆議員議員が出席。「教育再生こそ国づくりの根幹」と題する講話で、「教育再生の基本は日本人の魂の復活である」と約1時間半に亘り、安倍内閣の2つの柱、経済再生と教育再生について熱っぽく持論を展開された。

アベノミクスが成功し、経済再生



への方向性が見え始め、教育再生に関しては①教科書検定基準見直し②道徳教育の教科化③学校制度見直しと大学改革を推進して、自虐

史観を一掃し、日本人の魂の復活を目指して自ら文部科学副大臣として先頭立って改革を進めていることを語られた。以下はその骨子です。

アベノミクス成功と戦後レジームからの脱却



経済は国の根本ですから、その再生は最優先で取り組まなくてはなりません。戦後、デフレ経済の中での不況はどこも経験したことのない中で唯一経験したのが日本の大正時代の金融恐慌です。この時、高橋是清蔵相が金融緩和を実施し、公共工事をして不況を克服しました。これを真似たのがアメリカのニューディール政策です。「建築費の安い不況時こそ公共工事を積極的にすべきだ」と言ったのは麻生太郎元首

相です。

安倍内閣はこの1年経済1本槍で突っ走ってきましたが、経済再生と教育再生が2本柱です。経済を復活し、日本を取り戻す。戦後レジーム(体制)から脱却し、日本人の魂を復活させることです。

安倍首相は、麻生元首相のアドバイスに応じ、積極的な経済再生策を打ち出し、アベノミクスは見事に成功しました。これから第2、第3の矢、そして東京オリンピック開催も決定し、方向性が見え始めたというのが経済再生の現状です。

第1次安倍内閣の時にも首相は戦後レジームからの脱却を掲げました。この精神は今も同じです。

自由民主党は、平成24

年の衆院選で公約に「日本を取り戻す」というスローガンを掲げました。日本の何を取り戻すのか、一言で言えば日本人の魂の復活以外あり得ません。日本再生の仕事をする1丁目1番地が文部科学省です。教育の現場が、自分の国はだめな国ですと教えているような現場で良いはずがありません。



教育再生は、日本人の魂を取り戻すこと

私は国会議員になって自虐教科書の一掃と教育基本法の改正に取り組んできました。今回、文部科学省に入り、道徳教育の強化に取り組んでいます。

国民の教育レベルやモラルが高く、自立自存の精神があったからこそ明治維新は成功し、戦後の復興もあった訳です。江戸時代も庶民は寺子屋で学び、来航した外国人も驚くほどの識字率でした。世界的に見ても素晴らしい時代です。

明治政府の富国強兵策が成功したのも国民の教育レベル、意識が高かったからです。教育がいかにかの基本かということが分かります。その明治政府の国づくりの基本となった明治憲法や教育勅語が、戦後占領政策で否定されました。立派な教育勅語を一切否定し、無国籍な今の憲法の理念に則って出来たのが愛国心も育たない教育基本法です。第1次安倍内閣はこれを改正しました。今、日本の歴史教科書はひどいことになっています。一体どこの国の教科書かと思われる教科書がず

と罷り通り、教科書検定は有名無実化していました。文部科学部会で徹底的に議論して、教科書検定制度の基準を変更し、教科書は教育基本法に則り、基本法からかけ離れた教科書は当然不採用になることを検定基準に書き込みました。26年度の中学教科書はこの基準に則って変わります。

教科書検定基準の見直しとともに教育改革のもう1つの目玉が道徳教育です。教育の根幹に道徳教育を据えます。これまでの総合教育でかなりいい加減だったものをきちんと教科化します。国の関与について道徳は心の問題、個人の問題だと必ず大反対が起こります。教科書を作るのはかなりの難作業ですが、副読本は少しは良い本が出来るのではないかと考えています。そしてもう1つの大きな教育改革の戦略は学校制度、大学制度の改革です。国際的に通用する人材というのは、いかに立派な日本人であるかが基本です。日本の歴史と文化をしっかり理解し、日本の国に誇りを持っている人が

国際舞台で通用します。

要は教育再生の基本は、日本人の魂を取り戻すことです。それにはまず日本の歴史観を正し、日本はずばらしい、誇りが持てる国だということをお教えします。

そして、教育の場で一番抜けていた縦の関係を教えることです。戦後の教育は横の関係だけです。友人・社会・人権、それも大事ですが、自分が何十人もの命をつないで今ここに奇跡のように生きている、その有難さ、すこさをしっかり教えることが教育の原点だと思います。そうしたら当然、日本の歴史に興味を持つようになり先祖を敬い次の世代をしっかりと育てていかなければならないと思うようになります。

南京事件にしても火を付けたのは反日日本人です。ある意味で日本の悲劇は日本人が全部作り出したものであり、そこが一番の日本の悲劇です。日本人として誇りを持ってしっかり子供たちを育てていかれるように、皆さん一緒に闘っていきましょう。

「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」からのご案内

『日曜討論』に皆様のご出演を!

—国益にかなない、真実を伝える番組の制作者・出演者を募集中—

インターネット生放送番組『スタジオ日本 日曜討論』は、平成15年10月の放送開始以来今まで1回も欠かさず、毎週日曜午前10時から2時間半の番組を実施してきました。その回数は平成26年6月末現在で561回となりました。番組でこれまで取り上げたテーマは、皇室、歴史、教育、防衛、憲法、領土領海、台湾・中国・韓国、男女共同参画、家庭、子育てなど幅広い分野に亘っております。番組にはそれぞれ専門の方や関係者、有志の方々にご出演戴き、有意義な議論を展開してきました。

この度、さらなる放送内容の充実を図っていくために、『日曜討論』番組の企画や出演者を幅広く募集することに致しました。「国益を守り、真実を語り、真心を尽くす」という私たちの番組の趣旨にご賛同戴けます方は、是非ご応募戴ければと存じます。簡単な要項は右記のとおりです。

なお、恐縮ですが、当番組はボランティアスタッフによる制作に努めておりますので、出演料・交通費は無償でございます。その点は、何卒、御了承願いたいと思います。皆様方の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

『日曜討論』番組の企画・出演者の募集

- *趣旨 わが国の歴史、文化、伝統を大切に、国や地域、家庭を愛し、国家・国民を大事にする内容であれば結構です
- *番組 毎週日曜日10時～12時30分 [2時間30分] 毎回生番組による放送です
- *シリーズ 1シリーズは6回の番組で構成されています 6週続けての番組となります
- *出演者 出演者は1回につき2～4人 (司会進行役は、支える会より1名出席します)
- *出演料等 無償 (ボランティア協力です)

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会 事務局

〒810-0001
福岡市中央区天神 1-3-38 天神 121 ビル 13 階
TEL 092(721)0101 FAX 092(725)3190
担当 茅野(かやの)・井上

日曜討論11年の歩み

シリーズ紹介

『日曜討論』の番組も、平成15年10月5日の第1回放送より、毎週日曜日に欠かさずことなく放送され、11周年を迎えました。また今年6月には放送回数も561回を達成し、地場・福岡において前例のないユニークな「社会派番組」として、その地位を確立してきました。

『日曜討論』継続の要因は、一にも二にもボランティア出演者の方々の深いご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

今回は、『日曜討論11年の歩み』として、第1回より今日に至る全91シリーズ(本篇88シリーズ517回、年末年始篇16回、周年篇6回、特別篇22回)と特別報道番組の内容をご紹介します。

『男女共同参画を考える』

本篇第1弾 全6回
平成15年10月5日～平成15年11月9日

『日曜討論』を誕生させる切っ掛けとなったシリーズです。平成15年1月よりスタートした福岡市の男女共同参画推進条例案は、市民の感覚とは大きく懸け離れたジェンダーフリー思想に基づく内容で進められていました。その内容の偏向性、危険性を市民に訴えるために取り上げた6回の内容の反響は大きく、福岡市の男女共同参画課にもこの番組の効果もあって、福岡市が当初発表した「中間取りまとめ(案)」に対して市民から当局の予想を遥かに超える反対意見が多数寄せられ、偏向過ぎた市の条例案に大幅な軌道修正を迫りました。



『日曜討論』が誕生するきっかけになった日本会議福岡主催の「男女共同参画講演会」(平成15年8月30日)。

『歴史教育を考える』

本篇第2弾 全6回
平成15年11月16日～平成15年12月21日

昭和57年の教科書改訂事件を機に検定基準に「近隣諸国条項」が設けられ、わが国の歴史教育は大きく歪められてきました。嘗ては史実が未確定故に教科書に不掲載であった南京事件は今日では日本軍の侵略戦争の象徴として描かれており、この誤りを正すために上杉千年先生が岐阜県から3回連続出演して戴きました。南京事件を巡る「日曜討論」の内容はネットの世界でも反響があり、数百件に及ぶ書き込みがありました。一方、2回に亘って放送したアジア解放の歴史に対しては現役の学生から学校で習ったことのない歴史として感動と感謝のメールが寄せられました。



独立記念日にスカルノ・ハツタ公園でムルデカ(独立)を叫ぶインドネシア人。戦後、インドネシアの独立に日本人の貢献は大きかった。

『日本の建国を考える』

本篇第3弾 全6回
平成16年1月11日～平成16年2月15日

平成16年頭このシリーズより『日曜討論』を貫くテーマを「日本再発見」に決定しました。戦後、占領政策により喪失せられた日本人としてのアイデンティティを回復していくためです。2月11日の「建国記念の日」を控え、わが国の国柄について取り上げました。世界に190ヶ国以上存在する国々の中で世界最大且つ最古の君主国家はわが国であり、神話からの歴史を今なお持続する独特の国柄を保持しています。「子どもたちに伝えたい」シリーズとして、日本の伝統・文化の根源となる神道や、神話に見られる神々の世界、また神武建国の歴史、天皇陛下のご公務等について取り上げました。



古事記・日本書紀の伝える神話、岩屋にこもった天照大神を呼び出そうとする八咫月の神々。

『海の彼方のニッポン "台湾"を訪ねて』

本篇第4弾 全6回
平成16年2月22日～平成16年3月28日

日本と台湾は運命共同体であります。平成11年より始めた日華(台)親善友好懇話会訪問団として訪台された方々の体験談を中心に、台湾の歴史や50年に亘る統治時代の日本の功績、また台湾で高く評価されている「日本精神」、日と台湾の将来など多岐に亘って紹介しました。日本統治時代の台湾生まれの台湾育ちの森崎治先生からは当時の貴重な証言を戴きました。このシリーズでは台湾の留学生にも出演して戴き、台湾の関係機関や留学生の会からも過分な謝意と評価を戴きました。このシリーズの内容は全て台湾本国にも寄贈されました。



3万3千柱の元日本軍の台湾人戦没者の慰霊と、日本・台湾の友好、親善、国交回復を期して平成11年より実施されている日華(台)親善友好懇話会訪問団。

『日本の国境線を考える』

本篇第5弾 全6回
平成16年4月4日～平成16年5月9日

領土問題は国家の盛衰を左右しかねない重要な問題であります。北方領土、尖閣諸島、竹島が、いずれもわが国の正当な領土でありながら、多くの国民には十分認識されていません。領土問題の解決には政府のみならず国民の意思と結束が必要であります。北方領土の訪問者や尖閣諸島上陸体験者、戦前の朝鮮の生活体験者にも出演して戴き、それぞれの歴史的な背景からわが国所領の正当性、現状や課題、また打開策について取り上げました。このシリーズの直前には中国の活動家が釣魚島に上陸したり、沖ノ島島は島ではなく岩であるとの中国政府の暴言があり、まことにタイムリーな企画となりました。



2月7日の「北方領土の日」に開催された北方領土返還要求全国大会には小泉首相も出席、返還実現への強い決意が示された(平成16年2月7日)。

『近くて遠い国・韓国』

本篇第6弾 全6回
平成16年5月16日～平成16年6月20日

日本と韓国が基本条約を締結し、国交正常化より40年の年月が経過しました。しかしながら、日本と韓国の間には埋めぬ問題が横たわっています。特に平成16年3月韓国国会で「親日派特別法」が制定されるなど両国の関係を一層悪しくしています。「植民地」朝鮮の背景から杉本幹夫先生が東京から3回も来福され、日韓併合の背景から朝鮮近代化へのわが国の努力、戦後の補償問題など、日韓両国の根柢にある日韓併合から国交回復までの歴史を丁寧に説明して戴きました。中でも日韓国交回復時にわが国が支払った補償は、当時韓国の請求により北朝鮮の分までだった事実を指摘されました。



昭和17年の新興工業都市・興南に工場が次々に進出、産業革命を起こしえなかつた朝鮮に、日韓併合時代わが国は、インフラ整備を行い近代化を図った。

『活躍する自衛隊』

本篇第7弾 全6回
平成16年7月4日～平成16年8月8日

戦後、自衛隊は国家・国民のために様々な活躍をしてきましたが、マスコミは憲法問題が絡む自衛隊を嫌い、活躍する姿を国民の目から意図的に遠ざけてきました。しかし平成3年のペルシヤ湾への掃海艇派遣、同7年の阪神淡路大震災、凶悪なテロ行為だったオウムサリン事件への対応は自衛隊なくしては対応できず、その実力を国民の前に遺憾なく発揮し、自衛隊に対する国民の信頼と期待は格段に向上しました。自衛隊OBの方々によって災害派遣、国際貢献、防衛のための緊急発進など様々な場面で活躍してきた実績を紹介して戴き、自衛隊の知られざる真実の姿を明らかにしました。



有珠山の噴火に伴う自衛隊の災害派遣。人命救助、給食給水活動等を実施(平成12年3～7月)。

日本再発見

『愛は家庭から』

本篇第8弾 全6回
平成16年8月15日～平成16年9月19日

「世界の母」と慕われたマザー・テレサの「今日、平和を破壊するいはん恐ろしいものは腹胎です」と言う言葉に啓発され、胎児の生命を守るために全国各地に「いのちの会」が誕生しました。マザーの「子どもは神様から賜った最も美しい贈り物である」などの心のメッセージを数々紹介しながら、胎児の生命の尊さやこの世の一人ひとりがある存在であることをお伝えし、産むことに悩んでいる方への相談や産まれてくる胎児を支援する同会の感動的な活動を紹介して載せました。この番組を聴かれて「救われた」との感謝の念から、直接放送局へ来訪された方がありました。



「愛は家庭から始まり」と胎児や子ども達への親の愛を呼びかけられたマザー・テレサ。

日本再発見

『靖國神社』

本篇第9弾 全6回
平成16年10月3日～平成16年11月7日

靖國神社には約250万の英霊が祀られています。毎年約600万人が訪れる靖國神社は世界で最も参拝者が多い慰霊施設です。番組では、靖國神社の創建の歴史から祀られているご祭神、毎日一日も欠かさず行なわれている厳肅な祭典、最も重要な春秋の例大祭、更には昭和殉難者「戦犯者」の呼称は誤り合祀の経緯、わが国の首相や戦後の各国要人、外国軍隊の靖國神社への参拝を紹介し、今なおわが国の中心的慰霊施設であることをお話ししました。この番組を聴かれた視聴者から番組で紹介した英霊の方々の遺書に感謝され、「気持ちを入れ替え、これからは靖國神社に参拝したい」とのメールが寄せられました。



毎年8月15日終戦記念日には10万人前後の参拝者が訪れる靖國神社。首相の参拝が期待されています。

日本再発見

『軍隊体験』

本篇第10弾 全6回
平成16年11月14日～平成16年12月19日

歴史以来約60年の年月が経過しました。その間、わが国の歴史上最大の困難であった大東亜戦争を戦地で経験された方々は殆ど逝去され、真実の戦争経験者の方々の体験を聞く機会が極めて困難になりました。そこで軍規範正、世界で最も鍛えられた日本帝国軍人を体験された方々に、幼年学校、士官学校、陸軍、海軍、特攻隊などの経験から今日と比較して、当時の教育や軍隊での体験を語っていただきました。中でも小学校高学年の時に「アジアから米攻を駆逐してアジアの手に取り戻す」とを人生の志とした話には、激動の時代を生き抜く当時のわが国の青少年の士気の高さに感嘆させられました。



新皇國軍司令部下で副官より市街視察を聞く候補生(白鷺福 福岡県感友連運送任顧問所蔵写真より)。

日本再発見

『家族の絆』

本篇第11弾 全6回
平成17年1月9日～平成17年2月13日

嘗てアルビントフラは、「人類に重大な危機が到来するならば、人々が家庭本来の尊い意義を喪失し、それに由来して家庭が崩壊してしまう時であろう」と予言しました。まさしく家族の強化、家庭の復活こそ人類の幸福を招く鍵であります。その家庭が幸福になるためには「母親の心のあり方が大切」として、夫を尊敬し家族に愛を与え続ける母親の役割を語り続け、数多くの家庭を救ってきた「教育研究会未来」の方々に出演して戴き、胎教から思春期までの子育てで、数々の素晴らしい実例を沢山紹介して戴きました。視聴者からも反響があり、番組には多数のFAXやメールが寄せられました。



全国各地で活発に開催されている教育研究会未来の「親が変われば子が変わる」の「親の教育」講演会。

日本再発見

『社会の幸福』

本篇第12弾 全6回
平成16年6月27日、平成17年2月20日～平成17年3月27日

「男女共同参画を考える」シリーズで始まった「日曜討論」も開始以来1年半を迎えました。案の定全国で男女共同参画を巡るトラブルが続出し、その実情を紹介するために八女市、飯塚市、筑後市、太宰府市、大牟田市など各地で条例家は正に困ってこれた方々に出演して戴きました。各市町村の条例家は次第に巧妙化、悪質化しており、特に17年3月に制定された飯塚市の条例は全条文の約半分がオンプズパワソンについて設けられました。裁判官でも警察官でもないオンプズパワソンに特定の権限を与えることは思想管理社会を生み出し、まさに社会や市民に不幸をもたらすことを警告しました。



本来の「男女共同参画」とは何かについて各地で活発に開かれる講演会。

日本再発見

『中学歴史教科書』

本篇第13弾 全6回
平成17年4月3日～平成17年5月8日

平成17年4月3日、扶桑社の「新しい歴史教科書」が検定合格しました。昨年、東京都が現行の扶桑社の教科書を採択した時に横山委員長は「実に共感するところが多い」とコメントしました。このシリーズでは、近年の教科書検定を拘束している「近隣諸国条項」の問題点について検証し、続いて現行の扶桑社と他社の教科書とを比較、決定的な違いが見られる近現代史、特に日韓併合、満洲事変、支那事変を取り上げました。最終回は、伊藤哲夫先生(日本政策研究センター所長)に出演して戴き、本年検定に合格した最新の扶桑社と各社の歴史教科書とを比較し、扶桑社教科書の特色をアピールしました。



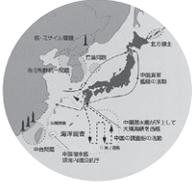
平成18年度から21年度迄4年間に亘って使用される検定合格の扶桑社の歴史教科書。学習指導要領に最も適した教科書として高い評価を集めている。

日本再発見

『日本の誇り自衛隊』

本篇第14弾 全6回
平成17年5月15日～平成17年6月26日

今年3月20日、明治23年福岡管区気象台が観測を開始して以来、県内で最大規模の地震が起こりました。また昨年2月に第一次イラク復興支援隊が派遣されて1年余りが経過しました。いずれも自衛隊の活躍が米の関を賑わせました。今回は、昨年7・8月の「活躍する自衛隊シリーズ」以降の自衛隊の活躍を中心に紹介しながら、「災害派遣」や「国際平和維持活動」での自衛隊の実績、イラクに駐留する部隊の中で最も評価されている自衛隊の支援活動を紹介します。加えて自衛隊の本義に関わる「国防」や「新防衛計画大綱」についてはまだ課題が多く、OBの方より評価以上に将来への懸念が示されました。



わが国を取り巻く安全保障状況は厳しいものがある。朝鮮半島や台湾海峡を巡る問題、中国潜水艦の日本の領海内潜行など、防衛力の整備が望まれる。

日本再発見

『子どもは授かりもの』

本篇第15弾 全6回
平成17年7月10日～平成17年8月14日

今日、わが国の将来に最も深刻な影を落としているのは少子高齢化であり、加えて、女性の中から母性の喪失が指摘されるようになり、子どもを産まない女性や結婚を否定する若者が増えています。嘗て「赤ん坊が生まれて一番幸せな国」と謳われ、子どもを中心に存在した温かい社会や慣習がしつかりわが国を支えてきました。福岡県助産師会会長の賀久は「先生より、女性が持つ本来の天分を発揮し、いのちの継承が行われていく社会を作り上げていくために、「出産の素晴らしさ」や「子育て文化」「結婚教育」など、女性が生きてゆくための様々な助言をして戴きました。



福岡県助産師会会長の賀久はつと先生、4千人の子どもを取りあげられたその手は、魔法の手と新聞各紙にも紹介された。

日本再発見

『英霊顕彰』

本篇第16弾 全6回
平成17年8月21日～平成17年9月25日

今年は終戦60周年を迎えました。祖国の自存自衛とアジア解放を賭けて戦った大東亜戦争は、武運拙く敗北の憂き目に遭いました。しかし、わが国の独立の確保と欧米の植民地に下しに苦しんでいたアジア・アフリカ諸国の独立への契機となった事は大きな成果でした。そこには、敵国をも感動せしめ、また鬼神をも泣かせるわが国の英霊の方々の行為がありました。このシリーズでは、大東亜戦争史上の激戦地、サイパン・硫黄島・沖繩・占守島を取り上げ、一身を掛けて戦い、いた英霊の方々の魂まじい戦いぶりを紹介しました。感謝と追悼の念を持ち、英霊の方々の顕彰こそ後世に生きる私たち国民の責務であると、感動と決意を新たに戴きました。



天皇皇后陛下のサイパン島行幸に先立って実施された「中部太平洋方面戦没者慰霊祭」(平成17年6月26日)。

日本再発見

『昭和天皇御巡幸』

本篇第17弾 全6回

平成17年10月2日～平成17年11月6日

わが国は先の大戦で史上未曾有の敗戦を経験しましたが、世界に類を見ない見事な復興と繁栄を遂げました。その背景には、焦土化した、戦に打ちひかれた国民を慰め、産業復興への勇気と激励を与えるために、昭和21年から29年にかけて昭和天皇の全国御巡幸が行なわれました。当時、同行していた本国の報道人も「国民は本当に心から奉迎しており、少しも悪気がない。わたしはイギリスのジョージ王陛下とルーアール大宮殿、モッリニーにも随行したが天皇はど人気のある人を知らない。天皇は日本でなお最大の影響力を持っている」とか、く奉迎の熱狂ぶりに驚いた」との感嘆を残しています。昭和24年5月18日から6月11日までの23日間、約2,000km、御視察180余箇所にとんだ九州御巡幸の感動のドラマを紹介しました。



昭和24年5月21日、天皇陛下の奉迎に7万人の人々が集まった福岡奉迎壇(平和台)。

日本再発見

『今こそ実行、日本の教育改革』

本篇第18弾 全6回

平成17年11月13日～平成17年12月25日

昭和20年8月15日の敗戦によりわが国は、連合国より6年8ヶ月に及ぶ占領政策が敷かれました。それによりわが固有の歴史・伝承・文化が否定され、戦前の教育が否定される戦後教育が始まりました。以来60年を経過した今日、家庭の崩壊、教育の荒廃、社会秩序の不安定化など次々と問題が起つてきました。そうした背景の上で、教育中央審議会でも戦後教育の根柢である教育基本法の根本的見直しが提唱され、基本法改正の国民運動が大きく盛り上がりつつあります。

現在、教育基本法改正で論議されている愛国心や宗教的情懷教育、また家庭教育や教師の使命、国語・国歌国歌等、現在の教育で考えなければならない各種の内容について取り上げました。



『愛国心』『宗教的情懷』の適量の明記と「不当な支配」の削除を訴えた日本会議・民間教育協議主催の国民大会(平成18年4月11日)。

日本再発見

『北朝鮮拉致問題』

本篇第19弾 全5回

平成18年1月15日～平成18年2月19日

近年わが国の国民意識を覚醒させ、愛国心や国家主権、近隣諸国との関係などに大きな影響を与えたのは「北朝鮮による拉致された日本人」事件であります。脱北した北朝鮮元工作員の証言で、横田めぐみさんの拉致が明らかになり、家族が実名を公表して救出運動に取り組みすることを決断し、平成9年3月に家族会(北朝鮮による拉致被害者家族連絡会)が結成されました。福岡でも遼寧「家族会を支援するための救出組織が生まれました。マコさんが注目された北朝鮮「救出会」の方々に生かされていくことを、そして被害者の人たちに如何に救出すべきかを語って戴きました。今こそ救出へ向けた全国民の一致団結と、経済制裁をはじめとする政府の取断とした決断が求められています。



家族会の方々を先頭に北朝鮮への経済制裁を訴える国民大行進(天神・渡辺通)(平成18年7月15日)。

日本再発見

『日本の安全保障』

本篇第20弾 全5回

平成18年2月26日～平成18年3月26日

18年1月20日に第164回通常国会が始まりました。高性能無人ヘリコプターの中国への不正輸出、最新型地对空ミサイルシステムの機密が漏れるなど国家の安全を揺るがしかねない大問題が起つているにもかかわらず、安全保障問題には全く目くくれぬわが国民の様子で、ドクワツ在住のクライン孝子氏は「私など、当地ドクワツから日本の国会におけるこの空虚な討論風景を眺めていると、いったい日本は、これで21世紀をいきまぬことができるだろうか、もしかると滅亡の運命をたどるのではない、...即刻何と対策を講じなければこの国末はない」と断言している」との厳しい言葉を寄せられました。この言葉を受け、元防衛大学校出身で、陸上自衛隊3等陸尉だった濱口久氏を中心に、わが国の安全保障問題を取り上げました。



東シナ海への覇権を目指す中国など、外国からの領海侵犯にに対しわが国を守る海上自衛隊。

日本再発見

『古高取』

本篇第21弾 全6回

平成18年4月2日～平成18年5月7日

今年は、1606年に宅間黨が開かれて400年を迎えました。直方で築かれていた時期は僅か20年に満たない期間でしたが、その間には今日の幕下の高取城の礎を築いた輝かしい時代でした。この直方発祥の高取城を「古高取(こたかとり)」と言います。シリーズでは、「古高取」の特色を紹介するとともに歴史的名考察も行ないました。「高取城」の研究者や継承者の方々からは、文禄・慶長役の折に朝鮮人陶工が日本に強制運送された話と聞かれました。また、江戸初期に朝鮮通信使帰国の折に福澤藩も約300人の朝鮮人俘虜を帰国させたにも関わらず多くの朝鮮人が再度日本に密航。また当時、日本人・朝鮮人にかかわらず有能な人物に対しては相当な処遇がされていたことも判明。老問の論調運送説とは隔たりがあり、改めてわが国の宗教・民族を超えた姿が伺われました。



直方市の高取山(標高630メートル)の麓に開かれた永満寺宅間黨跡から出土した碗。

日本再発見

『次代の担い手・大学生』

本篇第22弾 全6回

平成18年5月14日～平成18年6月18日

いずれの国でも大学生は、次代の国家を担う有望な人材であります。日本人としての誇りを持ち、日本の将来を担うために大学で様々な活動を展開している全日本学生文化会議の学生に出演して貰いました。同会議では、「行動派・体験派・思考派」をテーマに「7つの専攻」を展開しています。①教育再生へ向けての「臨海学校」の開催、②拉致問題解決へ向けての「日韓学生共鳴使節団」の派遣、③真実の歴史教育のための「英皇顕彰一歴史政策」の実施、④国柄の中心でいらっしゃる天皇皇后両陛下の地方行幸啓への「奉迎活動」、小学生との「臨海学校」をはじめ、中高生と一緒に知覧・万世特攻隊記念館への研修旅行の開催、韓国に大学生との積極的な対話と交流など、その行動力と活躍が目を見張るものがありました。



ソウル大学大学の学生と拉致問題について白熱した討論を展開する日韓学生共鳴使節団。

日本再発見

『幸せな結婚』

本篇第23弾 全6回

平成18年6月25日～平成18年7月30日

現在、男女共同参画や男女平等のもとに小学校低学年から「性教育」が行なわれています。しかしそれは生徒の尊厳を子供たちに実感させる教育ではなく、子供たちに従って皆への関心を高め関心を高めさせる教育になっていきます。学校教育で進められている現在の誤った性教育は子供たちの心身を傷つており、親への尊敬の心が生まれる教育にはなっていません。

幸せな結婚は当事者だけでなく社会全体を幸福にします。子供たちが結婚を望み、よき家庭を築くことは立派な教育を築くことになります。その為に親から子どもに伝える教育とは何か、幸福な結婚へ大切なことは何か、生命の教育、子育て、家庭教育などについて教育研究会未来の方々に体験談をもとにお話しを戴きました。



夫婦が調和すれば家族みんなが幸せになる。教育研究会未来の「心の教育」講演会(のガスター)。

日本再発見

『首相の靖國参拝』

本篇第24弾 全4回

平成18年8月6日～平成18年8月27日

靖國神社の首相参拝は、中国の内政干渉に屈従するかのよう昭和60年の中曽根康弘首相(当時)以来中止されてきました。しかし、平成13年8月13日、小泉純一郎首相は16年振りに靖國神社へ首相参拝を実現しました。だが首相参拝に対する内外の批判は激しく、中国関係や反対する国会議員を配慮して首相は毎年終戦記念日だけ参拝し、平成17年に至っては礼儀ではなく平服による、しかも参拝前日の自由参拝という、一国の首相としては礼を失った参拝が行われました。

このシリーズでは、首相の靖國参拝が遠慮でないことや所謂「戦犯」と称された方々の合祀問題などを取り上げ、8月15日の終戦記念日の首相による公式参拝を訴えました。シリーズ最中の平成18年8月15日、21年ぶりに終戦記念日における首相の公式参拝が実現しました。



終戦記念日に靖國神社に公式参拝する小泉首相(平成18年)。

日本再発見

『私たちの国民保護法』

本篇第25弾 全4回

平成18年9月3日～平成18年7月24日

平成16年6月14日に「国民保護法」が成立しました。この「国民保護法」は、有事に際して国民の生命・身体・財産などを守るために、県や市町村の役割、また国民の義務・協力などが定められました。わが国が武力攻撃等を受けた有事に対して有効に対処するために戦後初めて制定された法律です。この法律に基づいて都道府県では17年度中に、また各市町村では18年度中に「国民保護計画」の策定が義務づけられています。

このシリーズでは自衛隊OBの方々にご出演いただき、国民への周知が求められる「国民保護法」や「国民保護計画」、またスイスや英国など他国の「民間防衛」との相違点を分かり易く紹介して戴きました。どんなに意義のある法律ができていても非常時における現実自助・共助・公助=7:2:1であり、自助が最も大切であることを強調され、国民一人ひとりの普段からの心がけや備えが重要であることを指摘されました。



「国民保護法」と「国民保護計画」が紹介された国民必携のマニュアル。

日本再発見

『福田政権下の危険な政治課題』

本篇第35弾 全6回

平成20年1月27日～平成20年3月2日

「戦後レジームからの脱却」を掲げ、占領遺制の克服に向けて着々と成果を取っていた安倍内閣の後に誕生した福田内閣は、安倍前首相の改革はおおよそ反対の「戦後レジームの固定化」とも言うべきものでした。このシリーズでは、福田内閣で再燃した人権擁護法案や外国人地方参政権付与の問題をはじめ、更には地方自治法本条例、深刻な学力低下に対する教育施策、また十年で驚くべき躍進を遂げている中国の実情や学生の台湾訪問に関する報告を紹介しながら、わが国の直面する問題や将来への課題について討論しました。改めて一国の宰相の信念、哲学、戦略、構想力、指導力に国家の浮沈があることを感じさせられた内容でした。



胡錦濤・中国国家主席を首相官邸に迎える福田首相。

日本再発見

『台湾に慰霊の真心を尽して』

本篇第36弾 全6回

平成20年3月9日～平成20年4月13日

わが国・日本と台湾は共通項が山あり谷あり。①島国であること、②敗戦国であること、③戦後長期に亘って異民族支配(占領)されたこと、④憲法を押し付けられたこと、⑤敗戦利得者たる反国家分子の定着を許してしまったこと、台湾の李登輝前総統の卓越していることは、50年間の日本統治時代しかり形づくられた台湾深部の親日度・愛日度にスポットをあてて発言の機会を与え、再認識を与えたことだと思います。つまり、大いに議論させたことです。これで台湾の中の「ニホン派」は再び躍動を開始するに至ったわけです。李登輝氏の優れているものひとつに次の点もあると思います。大東亜戦争の戦死者(日本側)の名誉回復に全力を傾注して下さったことです。本国・日本では逆に、旧軍の戦死者にははれものにするような形で多くの為政者は冷たいものです。しかし、この李登輝氏もかつての日本統治の中で育つた人格であるゆえ、私たちは台湾に行くことのできるわが国に出会うことができると思っています。



台北文化経済協会の方々と私の交流の懇話会。

日本再発見

『環境問題への疑問』

本篇第37弾 全6回

平成20年4月20日～平成20年5月25日

環境に配慮することは誰も反対しない。誰もにも反対できない命題です。したがって環境問題でい見直しや見直しに見ると深く考えもなしで、又時味もなしで納得してしまう傾向があります。特にテレビ、新聞などのマスコミが事実を誇張したり、伝えるべき情報をきちんと報じていない場合は、マスコミの誘導する方向を盲信してしまい、真実を見失うという危険があります。

しかし、環境問題には、実はよく見ると、ウソやごまかしが沢山あるというのが現実です。今回のシリーズではこれらの問題点を議論してまいります。



環境問題のトリックを解明し、安易なリサイクル推進運動に警鐘を鳴らす同書。

日本再発見

『新教育基本法のめざすもの』

本篇第38弾 全6回

平成20年6月1日～平成20年7月6日

教育基本法は、我が国の教育に関する最も根本的な法律です。教育に関する様々な法令の運用や解釈の基準となる性格を持っています。教育の「憲法」とも言われています。この教育基本法が、昭和22年3月31日の施行以来実に59年ぶりに全面的に改正され、平成18年12月22日に公布・施行されました。現在は、この新教育基本法のもとに関係法が順次改正され、学校教育や学習指導要領が大きく変わりつつあります。「新教育基本法のめざすもの」と題したこのシリーズでは、教育の再生によって国家の再生を果たしてきたイギリスやアメリカの例も紹介しながら、新教育基本法の異議や我が国の教育の方向性について考えていきたいと思えます。



2,500名が集まった日比谷公会堂での「教育基本法改正を求めらる中央国民大会」。

日本再発見

『となりの国、中華人民共和國をよく知ろう』

本篇第39弾 全6回

平成20年7月13日～平成20年8月24日

中国については、4年前のサッカーアジア大会における中国の反日行動や、今年に入り、中国製毒薬キョウサザ事件の中国の対応、チベットへの抗議に対するチベット人殺害、聖火リレー抗議への中国の対応、そして四川大地震での中国の実態などを、テレビの映像を見て、日本とはかなり違う国だなどの認識が少しずつ、日本人の間に広がっているのも事実です。又、一方では、日本人は先の戦争の間に中国で酷いことをした、との罪つらした認識は依然として定着せずにはいます。この誤解意識は中国問題での日本の行き過ぎた譲歩につながり、日本の国益を大きく損ねています。そこで、今回は、我々の中国を見る際の一つの材料として、毛沢東率いる中国共産党が結党以来何をしてきたのかをとりあげたいと思います。



「東トルキスタン」の旗を掲げてフジントン市内をデモ行進する米ウイグル人。

日本再発見

『日本人と中国人はこれほど違う』

本篇第40弾 全6回

平成20年8月31日～平成20年10月5日

開会前は貴賓会談が巻き起こった北京オリンピックは、中国の実情を世界中にハッキリと明らかにして終わりました。大量のメダル獲得という光と、情報の隠蔽という影、その両面が一方独裁による専制政治がもたらすものであることが改めて思い知らされました。

そしてオリンピック世界という結果は、中国人に大陸の驕りを生むだけなのか、そして世界に大迷惑を撒き散らすのか。それとも北京五輪決定に世界が期待した中国の民主化、世界との協調が果たして進むのか。

それは、ひとえに、日本人を含めた世界が、中国に対して今後如何なる対応を取るのかに係っています。72年前のベルリン五輪開催がナチス・ヒトラーの笑いを生んだ教訓と反省をどう活かすかに係っています。中国と正しく向き合うためには、まず中国人を正しく知ることから始めるしあきりません。



中国人犯罪者と異向かつた、元刑事・北京語の通訳捜査官が語る中国人の正体。

日本再発見

『今上天皇の御跡をおぼびして』

本篇第41弾 全5回

平成20年10月12日～平成20年11月9日

今年が平成の御代になって20年の節目の年です。この間、様々な分野において変化に富む豊かで平和な時代が送られました。その一方で、国外では東部冷戦の終結、予の戦争の勃発など重なる平和は程遠く、また国内ではバブル崩壊、平成不況やたび重なる大地震等の自然災害や地下鉄サリン事件などの凶悪犯罪事件が起るなど、多難な年月でもありました。この中で、宮室は「常に国民と密着を共に」されて参りました。特に自然災害で被害にあった方には「心の復興」を祈って被災地を訪問され、また大きな戦で亡くなった英霊の方々に、ご遺族の方々に「心に」とも戦死者の英霊と世界平和への祈りを捧げてこられました。国際社会では、御即位後、天皇皇后両陛下ご訪問になったのは32ヶ国にもなり、友好と親善の高橋を築いてこられました。本シリーズでは、「全日本学生文化会談」の活動を通じ、約20年及ぶ天皇陛下の御事跡をご紹介します。皇室を中心とするわが国の国柄の有様についてご紹介してまいりたいと思えます。



サイパンに慰霊訪問され、パンザイクリアで黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下。

日本再発見

『日韓の歴史認識を考える』

本篇第42弾 全6回

平成20年11月23日～平成20年12月28日

韓国に誕生した保守派のイ・ミョンバク大統領は、当選後初の外国人記者団との会見で、対日関係については「謝罪と反省は求めない」と明言しましたが、文部科学省が、竹島は日本固有の領土であると、学習指導要領解説書に明記する方針が報道されると、遂に、これまでも大統領と同じく日本に抗議し、それを受けて日本側も譲歩してしまいました。又、保守派からも期待されて誕生した康生太郎首相も何のたためにも無「村山首相談話を踏襲すると表明し、そのおため、つい先日には事実をのべたにすぎない田母神空幕長の論文が政府の方針に反するとして更迭されました。このようになるのは結局、われわれ日本人の日本の歴史の理解の実態が原因です。そこで、今回は日本人の日本の歴史をどう認識すべきなのか、を考えたいと思います。



大正13年に日本が朝鮮に設立した京城帝国大学。

日本再発見

『日本は侵略国家であったのか』

本篇第43弾 全6回

平成21年1月11日～平成21年2月15日

昨年11月、当時の田母神航空幕僚長が民間の歴史論文に反駁した論文「日本は侵略国家であったのか」が村山談話を踏襲するとした康生内閣の方針に反したとして更迭されました。田母神航空幕僚長の主張は、国の安全を命がけする使命を負う自衛隊員には愛国心がなければその重責を果たすことができない、そのためには我が先人達の歴史を正しく知る必要がある、日本の近代史を直視すれば、我が国が侵略国家であるとの決め付けは間違である、歴史を失った民族は衰退する、というものでした。大東亜戦争終結後、60年を経過し、社会を動かす役割を担うのは、戦前の日本を断罪する自衛隊員の歴史教育、マスコミ報道などに洗脳されたままであり、そのことが日本の安全保障、日中・日韓外交に悪影響を与えています。今こそ、正しい日本の近現代史を取り戻さないと、日本は歴史を失い衰退するしかありません。



「日本は侵略国家ではない」との田母神前航空幕僚長の発言に国民の6割が支持。

『日台魂の絆・十年』

本編第44弾 全6回
平成21年2月22日～平成21年3月29日

平成11年に始まった「日華(台)親善友好慰霊訪問団」は昨年で10回目を迎えました。「英霊顕彰なくして誠の家族(兄弟)交遊なく、その絆と広がりなくして日台両国の国交回復なし」をモットーに、昨年から10回に亘って親善友好慰霊訪問が行われました。その間、訪問団の参加者は延べ261人を数え、また訪問団と縁故のできた方々は50人を超えました。先の大戦で日本人として亡くなった3万3千余の方々に感謝と追悼の誠を捧げることが、台湾の方々の心からの信頼関係を築き、魂の交流に繋がっています。



「英雄顕彰亭」と「聖安故郷」の慰霊碑の前に、毎年行われる「原台湾人元日本兵華人軍属犠牲者大慰霊祭」。

『私たちの領土は私たちが守ろう』

本編第45弾 全6回
平成21年4月5日～平成21年5月10日

領土は国家成立のための必須条件の一つです。領土を持たない民族の悲惨さはパレスチナ人、クルド人、ロマ人などを例に挙げれば一目瞭然である。しかし、現在の日本人には自ら領土の有り難さが全く分かっていない。領土は失くしてしまっただけからその歴史に気づいては手遅れです。日本以外では、領土は領土問題の認識が国民の常識であり、イザとなれば戦争に訴えても守っています。又、最近では中国、インドなどの台頭により資源食料争奪戦が熾烈さを増す中、領土問題は私たちの世代のみならず子孫にも及ぶ課題となっています。



僅か80kmの距離で韓国と対峙する、対馬の北端の航空自衛隊海軍島分屯基地。

『国の安全・食の安全・身の安全』

本編第46弾 全6回
平成21年5月17日～平成21年6月21日

「安全・安心」は私たちが幸福な生活を営む上で大変重要な要素です。昔々わが国は、治安が世界で最も良く、地域共同体の結びつきが強く、安心して暮らせる社会でありました。しかし、世の中の進展に伴い、政治、経済、食料や人の交流が活発化、グローバル化していくことで、課題も明らかになって参りました。数年前発生した鳥インフルエンザ(急性肺炎)に現在注意意識が喚起されている新型インフルエンザ問題、さらには昨年起こった金融不況など、私たちの安全・安心が世界的規模で、また国際社会の動向にまで左右されるようになってきました。当シリーズでは、国の安全、食糧問題あるいはパニックを引き起こすとも言われている新型インフルエンザの問題など、私たちの身近な「安全・安心」に関わる問題を取り上げていきたいと思います。



感染すれば致死率が高い新型インフルエンザへの警告と対策の書。

『北朝鮮の核兵器にいかに対抗するか』

本編第47弾 全6回
平成21年6月28日～平成21年8月2日

去る5月25日、北朝鮮は2回目の核実験を実施しました。これによって、世界による北朝鮮の核武装に対する阻止の圧力が失われたこととなります。これで我が国の周囲の国がすべて核武装保有国という状況の固定化はもたらされてきました。戦後の日本はアメリカに追随して、いざばボロを出さずに経済的繁栄を謳歌してきました。しかし、ノ連前後の世界は、ある意味で弱肉強食の時代です。アメリカもかつての世界最強の経済力と軍事大國を誇るどころか、この日本が不透明になっており、今や中国の経済と軍事力はこれほどのようには無視できない事態になっています。つまり、今の日本は幕末と同じ状況です。欧米の代わりに、反日を国是とする一党独裁の中国と北朝鮮が我々を圧迫しているのです。



北朝鮮が発射したテポドン2号(平成21年4月5日)。

『日韓併合100年を考える』

本編第48弾 全6回
平成21年8月9日～平成21年9月27日

来年は明治43年(1910)に日本が韓国を併合してから丁度100年にあたります。民主主義の鳩山由紀夫氏は6月に代表就任して間もなく韓国を訪問し、「民主主義が戦勝をれば日韓併合100年と関連して適切なメッセージを出すだろう」となど、非常に気遣いのある発言をしています。またNHKが韓国を訪問し、韓国の字に「朝鮮植民地時代の不当性を証明できる資料はどんなものがあるか」と尋ねたそうです。さらに、国内にも朝鮮半島植民地時代を反省し謝罪し主張する学者や団体が新たな活動をしています。



朝鮮総督府が作成した日本語とハングル語を併記した教科書。日本は学校を設立し、ハングル語を教えた。

『日韓歴史問題の争点』

本編第49弾 全6回
平成21年10月18日～平成21年11月22日

歴史認識とは国によって異なるものであり、双方がお互いに認め合うしかないという性質のものであります。例えば、アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンから見れば独立戦争の英雄だが、イギリスから見れば反乱軍の首領です。同一の歴史的事象でも双方で見方が異なるのです。そしてこの違いを双方が認め合うことを前提としない国家の歴史認識の対立はなくなりません。一方が他方に譲歩することで決着をつけることはできません。



日韓併合時代に朝鮮は近代化。ソウル・南大門通り(昭和11年)。

『心に留めたい日本の歴史・日本人①』

本編第50弾 全4回
平成21年11月29日～平成22年1月17日

我が国の歴史について人々がその認識を形成するのは、普通、学校教育であったりテレビ、映画、新聞等のマスメディアによります。現在の学校教育の歴史教科書が自衛史観の影響下にあることは、「新しい歴史教科書をつくる会」の活動により知られるようになってきました。自衛史観は歴史教科書ばかりではありません。NHKはじめ民放各局も日本の過去の歴史について、とことろに否定的側面を強調し一方的立場からの意見を紹介する番組を放送しています。その一例が今年の4月にNHKが放送した「JAPANデビュー」です。歴史というものはどの番組でした。



米国のボツマスで日露議和会議(明治38年8月14日)、手前が日本代表團、向かい側がロシア代表團。

『心に留めたい日本の歴史・日本人②』

本編第51弾 全2回
平成22年1月24日～平成22年1月31日

他国に比べてわが国は、天然の要害である四海に恵まれる。建国以来平和な時代を長く享受してきました。その中で外患による危機は、鎌倉時代の元寇と弱肉強食の時代であった幕末以降の近代の苦闘を経験しました。特に、産業革命の力を背景にアジア、アフリカ諸国を植民地化し、栄華を極めた西洋列強や、9世紀以降東進を続け世界最大の版図を築き、樺太・千島列島、満州へと前進を始めたロシアの存在は、わが国の存続に影響するものでした。また国際連盟や国際連合も力強い国が支配する時代において、国土と国民の生命、国家の生存権を守るためのわが国の父祖の努力は、筆舌に尽くし難いものがありました。個人の人生がそうであるように、国家の歩みにおいても成功もあれば失敗もあり、また喜びもあれば悲しみもあります。個人が出生以来の歴史を背負って生きていくように、国家も建国以来の歴史を有しており、その歴史を大事にしながらそれら担っていく姿勢が後世に生きる国民の務めでもあります。もともと敗戦に敗ればわが国は地上から消え失せていたかもしれないと言われる日露戦争において、世界が驚嘆するほどの勇敢な戦いによって海軍の勝利を得ることができました。



日露開戦の5年前(1899年)にオランダのハーグで陸戦の法慣例に関する条約が採択され、わが国はその条約を忠実に守り、捕虜を厚遇した。

『永住外国人地方参政権は百害あって一利なし』

本編第52弾 全4回
平成22年2月7日～平成22年2月28日

戦後の日本は、国家であることを止め、経済活動をする人間達の集まる場所に過ぎないことになったが、その究極の姿が、現行、民主党政権が成立を目指す、永住外国人参政権付与案です。敗戦後、戦前の日本はすべて悪でアジアを侵略した悪棍であるとの誤り込みが、教育、出版、マスメディアに蔓延し、その毒舌を除くことが出来なままにまわりました。それでも、戦前の真実の姿を知る世代が目を見らして居る間は、それなりが通用してきてきました。しかし、戦後世代の日本非歴史観に洗脳された世代が社会の重要な役割を占め、保守から左翼に政権が移った途端に、その影響が一挙に現れました。「日本は日本人の所有だ」という考えは、思いがかりにはないでしょう。日本列島は日本人だけのものではない。今、とでもなるとなると政治的な「悪」を公言する人間が、わが国の総理大臣なのです。この二国の総理大臣の内閣内閣を内閣内閣として居る永住外国人参政権問題を議論してまいります。



外国人参政権反対の国民大会に全国から1万1名が参加(平成22年4月11日/日本武道館)。

日本再発見

『英霊顕彰と日台魂の絆』

本篇第53弾 全6回
平成22年3月7日～平成22年4月11日

平成11年に始まった「日(台)親善友好慰霊訪問団」は昨年で11回目を迎えました。『英霊顕彰ならぬ誠の家(兄弟)交流な』その絆と記憶が年々深まり、日台両国の国交回復したをモットーに、昨年より11回に亘って親善友好慰霊訪問団が行われました。先の大戦で日本人として亡くなった3万3千余柱の骨々に感謝と追悼の誠を捧げることが、台湾の方々と心からの信頼関係を築き、魂の交流につながっています。

昨年、訪問団に初めて外国人の方が参加されました。英国で苦難を植民地支配を受けたスリランカ人のウイクラム・レントラー・サーニさんは、ご自身の経験から「日本の統治を受けた台湾人が日本人に感謝している姿を目の当たりにし、日本が台湾で行った統治に偉大さと考え方を新たにされました。」



第11回訪問団に初めて外国人が参加。英国の植民地支配を受けたスリランカ出身のウイクラム・レントラー・サーニ氏(右)。

日本再発見

『日本に移民は必要か』

本篇第54弾 全6回
平成22年4月18日～平成22年5月23日

日本は経済成長のために外国人労働者に依存しなかった唯一の先進国と言われています。一方、日本と同じく敗戦の焼け野原から出発したドイツや、イギリス、フランス、イタリアなどの国は戦後の経済成長を外国人労働者に依存しました。そして、現在それらの国は、外国人労働者あるいは移民との民族間摩擦や文化摩擦が大きな問題となっています。ところが、実は現在、我が国にも平成20年末現在で約20万人もの外国人居住者があります。我が国でも外国人が多数住む地域では日本人との間に軋軋が生じています。避けては通れない課題である、日本の外国人労働者問題、移民問題について考えたいと思います。



世界中に移民していく中国人の傲慢・不誠実・無責任な言動に各国で被害やトラブルが頻出。

日本再発見

『古高取』と「京陶工」

本篇第55弾 全5回
平成22年5月30日～平成22年6月27日

今から400年まえ、戦乱もようや終息を待たぬ日本は鎖の産出国として、かつてない経済的繁栄と文化的隆盛を極めてきた。当時、織田信長の影響もあって茶の海は武將たちにとって必須の教育であった。その文化的影響はここのところまで及ぶ。また茶陶の重要性を強調していた初代徳川幕府長政は現在の政古福智山の麓に「茗園寮」内に「職室」を築きました。

従来、日本で精製された茶陶は文様・慶長の後の折、日本に運送された朝鮮人陶工によるものとされてきました。しかし、近年の研究成果から朝鮮人陶工によるものとする説には疑問があり、むしろ、その多くは京都を本拠地として国内で自由に往來していた陶工達によるものとする説が有力になってきました。長年にわたる宅間窯、内ヶ磯窯の発掘調査はその説を裏支える有力なものになっています。様々な角度から内ヶ磯窯京都の陶工との関わりを検証していきます。



直方の内ヶ磯窯で生まれた高取焼・斑絵通文茶碗鉢。

日本再発見

『日本の子供たちの未来を守るために』

本篇第56弾 全6回
平成22年7月11日～平成22年8月15日

平成21年9月に「政権交代」という大きな期待の下に誕生した民主党政権。しかし、数ヶ月経たずに、「政治とカネ」の問題が露見し、国民の失望と怒りを買い、また、

また、「子供当て」や普天間基地問題、宮崎の口蹄疫問題など、統治能力が欠けた政権であることが暴露されました。更には、ムネオにも掲載しなかった「外国人参政権」や「夫婦別姓」を先の通常国会に提出しようという動きがあり、全国の都道府県知事連会や市町村議会も反対の姿勢を示しました。国家新憲法を改定する法案と合わせ、危険性が極く高くなる法案を成立しようとする民主党の姿勢、これも政権交代と呼べるものではありません。

この状況を受けて、普通の主婦や母親が立ち上がり、平成22年2月11日に「日本の子供の未来を守る会」が結成されました。前衆議院議員の西川京子先生、元沖縄県議を特別ゲストに迎え、臨時国会以降に国会提出の趣意のある「外国人参政権」「夫婦別姓」の問題点を、学校現場の教育の実情を「日本の子供の未来を守る会」の皆さんもお話を伺ってみたいと思います。



日本の将来に危機感を感じ立ち上がった「日本の子供たちの未来を守る会」の街頭情宣活動(渋谷公園広場)。

日本再発見

『民主党の危険な政策、法案』

本篇第57弾 全6回
平成22年8月27日～平成22年9月26日

民主党は政権獲得前から政権担当能力に疑問が投げかけられていたが、それを象徴するのが、本大政綱を決める事が出来ずにいること。安全保障政策など幾つかの相対的施策で党内の意見を集約できないので、選挙目当てでこ都合政策と標榜される所以です。その結果が鳩山政権の普天間問題、政治とカネ問題で10ヶ月で崩壊という結果です。特に普天間問題の場合山首相の「字へば字ほど解離力がかかった」には感嘆を覚えます。

又、歴史認識が東京裁判史観そのものであり中国と韓国の歴史認識を指弾していること、国家観が未だ未熟な点については以前から指摘されてきました。それが外国人地方参政権、選択的夫婦別姓の推進となって表れています。

そして菅直人首相は先日8月10日に総理演説を発表しましたが、談話を示すべきではないと批判された演説の内容であり、極めて大きな問題を含んでいます。菅談話の歴史認識について議論をして参ります。



普天間基地問題で迷走し、日米問題を不安定化し、国民からの支持も失った鳩山首相の退陣を報じる新聞。

日本再発見

『民主党の危険な政策、法案(続篇)』

本篇第58弾 全6回
平成22年10月3日～平成22年11月7日

民主党代表選挙の最中の9月7日に沖縄県尖閣諸島の海域で違法採集していた中国漁船が、取り締まらぬ中我が国の監視船に対してわざと衝突し、公務員死傷や逮捕されるという、重大な領土領海侵奪事件を起しました。これに反して日本政府は翌日に領土法に基づいて、南沙と対峙すると発表しました。国民は日本政府は当然起訴をするものと期待しました。一方、この日本側の当然の措置に対して、中国は徳韓衝突の事実の捏造発表、非礼な従軍中国兵の呼び出し、反日イデオロギー、日中交渉の遅延、中国人観光客1万人の訪日禁止などの外交攻勢を遂行しました。そして、更なる圧力として、レアアース対日輸出禁止に踏み切り、ついに、中国に滞在する日本人観光客の入国禁止の軍管理地域に入った容疑で拘束するという強硬措置に出ました。

これに米で実行する見られたい起訴方針を放棄し、那覇地検は船長を釈放する発表をしました。中国人船長は韓国英雄扱いの歓迎を受ける有様でした。船長が帰国した途端、中国政府は何と日本に対して謝罪と賠償を要求してきました。菅内閣の見通しの甘さが露わになりましたが、この民主党政権の冒した歴史的外交敗北の検証を行います。



船長釈放は那覇地検の判断だと仙谷官房長官は発言、外交交渉に及び懸の政権に国民の不届は高まった。

日本再発見

『中国は日本を敵と見ている事を忘れてはならない』

本篇第59弾 全7回
平成22年11月14日～平成22年12月26日

中国は平成4年(1992)に領海法を制定し、尖閣諸島を自国領土と明記しました。つまり、中国は日本の領土を奪うことを世界に宣言したのです。これにより中国は日本の敵であることが明らかになりました。

その後、江沢民は、平成9年(1994)9月6日付け人民日報に「愛国主義教育実施要綱」を掲載し、それまでの「抗日」教育を「抗日教育」へと転換しました。日本と勇敢に戦った中国を称揚する事から、日本に敬意を払わせる教育に転じたのです。その反日教育がすでに50年間余りに及んでおり、特に現在20歳の若者には影響を強く受けていると見なければなりません。先の沖縄県尖閣諸島領海における中国漁船領海犯事件の背景にはこれらの事実があることを忘れてはなりません。残念ながら、先日の尖閣ビデオ流出問題でも海上保安官の無責任の行為を問題にするばかりで、事の本来である、中国が日本の領土を奪おうとしている事は報知していません。中国からの言葉では耳障りのいいことを言っていますが、その裏には、日本から何を奪うかと国家の目的が、それに基づいて行動していることを常に認識しなければなりません。



平成22年7月1日に「中国国防動員法」が施行、日本に住む中国人の約17万人が対象、我が国の安全が脅かされる危機がある。

日本再発見

『今思っておこす日本人の気概』

本篇第60弾 全6回
平成23年1月9日～平成23年2月13日

ネオ冷戦が終結した後の世界について、宗教対立、民族対立、国家間対立が激化する予見をされたことと通じ、また、

人が多く多国籍大企業に断絶の危機も世界に広がっています。日本に対しては、東アジアのSUDで強引な開発を続け、昨年9月の尖閣領海犯事件では、平成4年(1992)に決した領土主権の意向を何ら尊重することなく日本国民に公然と示しました。いわば日本の敵として行動しています。

獨断専行のこのよう帝国主義的膨張政策とばかりを受け取っていたの方々が必要です。今こそ我々が我々が人たかひかりに国を守ってきたか、その気概を思い起こすべきではないでしょうか。



近代日本最難の外交官と謳われている小村孝太郎。

日本再発見

『歴史の争点』

本篇第61弾 全6回
平成23年2月20日～平成23年3月27日

現在の世界を動かしているのは、各国の利益追求の意思です。ソ連が崩壊して以降、自由主義派は共産主義というイデオロギーを打ち捨て、代わって自国の利益のみを第一とする。かつての帝国主義時代に戻ったかのようです。各国の利害の対立が容赦なく現れているのです。

日本も周辺中国、韓国、北朝鮮、ロシアと対立を余儀なくされています。その際、常に歴史問題が絡んできます。そして、日本はその歴史問題への対応の難さから常に劣勢に置かれています。北方領土問題、南京事件、尖閣問題、日韓併合、竹島問題、強制連行、慰安婦問題などです。戦後65年を経ても未だに解決を見えません。

この0年代の現代は日清史、東京裁判史観で教育を受けましたが、また戦前を起している戦前首相から戦前の歴史を伝えるのが、歴史の真実の一端に触れることも出来ましたが、その戦前世代も今や年々で現役を退き、その子供たちが社会を担う世代となって来ました。歴史を、いわば、書物だけで知った世代が社会の中心になろうとしています。そして、その若い世代に、如何に真実の歴史を伝えるかの課題となつていきます。その結果、学校での歴史教育の役割が前より大きくなくなっています。しかし現実には歴史教科書の痛んだが自虐史観、東京裁判史観に汚染されており、学校教育以外の場所での歴史の伝達が必要になることが期待されます。



東京聖霊堂。関東大震災の身元不明の遺骨が埋められている。

日本再発見

『韓国は叩け、さもなくばつけあがる』

本篇第80弾 全6回

平成25年7月7日～平成25年8月11日

昨年から韓国大統領や高官が日本に関して行った幾つかの発言は、韓国は一線を越えたと判断する事が必要となるものでした。昨年8月14日にイミョンバク大統領が演説で語った天皇土下座謝罪要求、今年3月1日記念式典におけるパククネ大統領演説の加害者被害者千年不変論、又4月23日には外交部報道官の歴史認識は正しいか間違いのどちらかしかないとの公式表明です。これらは実に驚くべき発言です。

天皇土下座謝罪要求は、ドイツのブラント首相がユダヤ人ホロコーストに対してひざまづいて謝罪したのと同じようにしろというものです。一国の大統領が隣国の元首に向かって要求したのものとしては前代未聞です。公然と他

国の元首にこれ以上はない屈辱を要求したのです。しかもそれも勝手な思い込み、捏造された事実にもとづいているのですから啞然とするしかありません。

加害者と被害者の関係は千年たっても変わらないというのは日韓歴史和解は不可能と宣言したのも同じです。これを韓国新大統領が就任早々宣言したのです。日本が加害者、韓国が被害者を当然の前提としていますが果たしてそれが真実なのでしょうか。これまた驚愕するしかありません。歴史認識は正しいか間違いかのどちらかというのは日本を韓国の歴史認識に従わせるとの宣言と同じです。歴史認識はお互いに尊重するしかないというのが国際常識です。これを真つ向から国家として否定したのです。

戦後日韓関係は日本の譲歩につぐ譲歩でした。日韓交流はここ数年で一段と盛んになりました。そうであるのにこの状態です。これは日本のこれまでの融和的態度、外交が間違っていたことを示しています。次の世代に今の歪んだ日韓関係を正常な関係に戻して引き渡すのが我々の責務です。



日韓併合前の朝鮮は、とても国家とは呼べない代物であった。荒川五郎氏の朝鮮視察記である『最近朝鮮事情』(明治39年)には、正視に堪えない不衛生極まりない事情が描かれている。しかし明治43年に日韓併合が行われ、以後、毎年、わが国から莫大な血税が持ち出された。これにより、衛生環境の飛躍的改善と、犯罪の激減、食料生産高の向上等により日本統治時代に人口と平均寿命が爆発的に延びることになった。当時の朝鮮を近代国家へと変貌させたのがわが国である。

〈シリーズ〉

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| 第1回 韓国の妄想—日本をナチスドイツと同列におく | 平成25年7月7日放送 |
| 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第2回 韓国は本当に被害者なのか | 平成25年7月14日放送 |
| 小菅玄三郎／木村秀人・津留毅／中実柚菜／茅野輝章 | |
| 第3回 韓国は被害者なのか 土地調査事業篇 | 平成25年7月21日放送 |
| 日隈精二／小川英造／中実柚菜／なし | |
| 第4回 韓国は被害者か 電力・道路・鉄道・農業編 | 平成25年7月28日放送 |
| 小菅玄三郎／吉田重治・奈田明憲／中実柚菜／なし | |
| 第5回 韓国は被害者か 教育・ハンゲル編 | 平成25年8月4日放送 |
| 香月洋一／川口武壽・三瀬博巳／中実柚菜／なし | |
| 第6回 韓国は被害者か 人命尊重編 | 平成25年8月11日放送 |
| 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『韓国とは対話は無用』

本篇第81弾 全6回

平成25年8月18日～平成25年9月22日

日本で外交を語る時、「友好」や「対話」が何にもまして優先させるべきもの、価値あるものとされることが殆どです。果てしたそうなのでしょうか。日中、日韓の外交を考えるとそうではないことが良く分かります。

外交とは本来、国益を守る、国益を追求するのが目的であり「友好」「対話」はあくまで手段に過ぎないのに、日本の外交とくに日中、日韓においては「友好」や「対話」のためには日本の主張を控える、場合によっては譲歩する事も国益となるとの理解しがたい考えが通る場合があります。現在の日中、日韓の外交の状況を見るとこれまでの我が



昭和40年6月22日 日韓両国は、日韓基本条約に正式に調印。日韓両国間の財産、請求権一切の完全かつ最終的な解決の確認が行われ、それらに基づく関係正常化などの取り決めが行われた。このとき日本は韓国に対し、朝鮮半島に残した財産や資産が韓国による賠償要求額を大きく上回ったため双方の請求権を相殺。その上で無償供与3億ドル、有償貸付2億ドル、民間借款3億ドルを経済協力金 計約8億ドルを支払った。当時の韓国の国家予算(3.5億ドル)の2倍強という巨額であり、戦後のわが国のこの莫大な援助なくして今日の韓国はない。真の日韓関係は、韓国によるこの真実(大恩感謝)の直視からしか生まれない。

国の外交の勘違い、友好優先、対話優先の姿勢が原因と断じていいでしょう。首脳会談実現のためと称して言うべきことを言わずに先送りしてきたことが何度あったのでしょうか。中国の尖閣侵略行為の数々や、韓国の大統領の一線を越えた発言や度重なる傲慢発言は、これまでの日中、日韓外交のツケが廻って来た結果です。日中外交、日韓外交の歪みはどこかで正さなければなりません。日本が譲歩するというこれまでの流れをどこかで断ち切らねばなりません。日中外交は尖閣では譲歩しないという方針の堅持でひとつの転機を迎えることでしょう。

日韓外交は、韓国の余りにも度の過ぎた、国際常識に反する韓国の態度が続く限り改善する必要はないと認識して、高飛車に出ることが唯一の改善の方法です。韓国と外交が疎遠になっても我が国に不利なことは殆どありません。これまで日本が韓国を相手にし過ぎたことが韓国を増長させた根本原因です。次の世代のために日韓関係が一旦は疎遠になっても正常な関係にするのが私達世代の務めです。

(シリーズ)

- | | | |
|------------|---------------------------------|--------------|
| 第1回 | 韓国は法を守らない国 | 平成25年8月18日放送 |
| | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第2回 | 韓国は日韓基本条約を否定 | 平成25年8月25日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・三瀬博己・葛目浩一／中実柚菜／木村秀人 | |
| 第3回 | 韓国の悪意を見据えよ | 平成25年9月1日放送 |
| | 香月洋一／川口武壽・行實正明・村上かおり／中実柚菜／小菅玄三郎 | |
| 第4回 | 韓国は恩知らず国家 | 平成25年9月8日放送 |
| | 小菅玄三郎／吉田重治・大山猛／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 韓国はウソ天国 | 平成25年9月15日放送 |
| | 小菅玄三郎／木村秀人・津留毅／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 韓国は日本と価値観共有していない | 平成25年9月22日放送 |
| | 日隈精二／安倍輝彦・小川英造／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『韓国に不都合な真実』

本篇第82弾 全6回

平成25年9月29日～平成25年11月3日

最近の韓国の外交、対外活動や韓国国内の動きを見ていると日本への悪意を示すことが次々と起こっています。

先日、韓国政府は東北8県の水産物輸入禁止を発表しましたが、東京招致に不利な情報を流すのが目的だと疑われても仕方のないものでした。丁度2020年オリンピック開催地決定の2日前という時期であり、またその8県の内にはそもそも海がなく韓国に水産物を輸出していない県も含まれていたり、さらに東北被災県の水産物は今はもう放射能の心配はなく只消費者心理を考慮して厳格な放射能検査をした全く安全なものしか販売されていないのに、さも問題あるかのようなイメージを与えようとするものでした。実はその他にも、韓国では、民間団体が2020年オリンピック東京開催決定阻止の署名集めをしたり、また東京開催決定後もそれに難癖をつける韓国マスコミの報道が相次ぎました。オリンピック東京招致活動の妨害という我々からすれば信じ難いことを官民一体でやっているとしたかと思えません。これを韓国の悪意と認識しなくてはならないでしょう。イミョンバク大統領、パククネ大統領と二人の大統領によってなされた日本に対する発言は、韓国は決して日本に友好的態度は取らない、と断定してもいいものでした。天皇陛下土下座謝罪要求、加害者被害者千年不変論、歴史認識一元論を日本は軽視してはなりません。とても一国の指導者が発しているいい発言とは思えません。

過去20数年の韓国の対日政策の数々を振り返って得られる教訓は、日本はこれまでの対韓政策を改めるしかないというものでしたが、昨年、今年とその認識を一層強めることが続いているのです。韓国が無理難題を要求し日本が唯々諾々とそれを呑むという、今の歪んだ日韓関係を正しいものに変えるには、日本は自らの主張をあくまで韓国に対して貫くことを続けることしかありません。日本の主張はけっして韓国を害するものではありません。一方、韓国の主張は日本を害するものが余りにも多いのです。日本は、韓国の真の狙いは日本を貶めることであることを決して見逃してはなりません。



平成25年9月6日、菅義偉官房長官は6日午前の記者会見で、韓国政府が東京電力福島第1原発の汚染水漏れを受け、福島など計8県の水産物輸入を全面禁止すると発表したことについて「わが国は水産物を含む食品について厳格な安全管理を行っている。韓国政府に科学的根拠に基づいて対応してほしいと求めている」と述べた。2018年の韓国での平昌オリンピック開催についてはわが国の協力を貰いながら、2020年の候補地が決定するIOC総会直前の韓国のこの行為は、まさに国家の品格を疑うに十分なものがあつた。

(シリーズ)

- | | | |
|-----|-------------------------|---------------|
| 第1回 | 韓国は日本以外には謝罪求めず、自分も謝罪せず | 平成25年9月29日放送 |
| | 香月洋一／萩尾行孝／岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第2回 | いい加減な韓国はそれなりに扱え | 平成25年10月6日放送 |
| | 小菅玄三郎／木村秀人・津留毅／中実柚菜／なし | |
| 第3回 | 韓国は日本の世界遺産登録で又イチヤモン | 平成25年10月13日放送 |
| | 香月洋一／川口武壽／村上かおり／中実柚菜／なし | |
| 第4回 | 大日本帝国軍人として勇敢に戦った朝鮮人 | 平成25年10月20日放送 |
| | 香月洋一／小川英造／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 盗品でも所有権は日本にあると日韓で決めた | 平成25年10月27日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 吃驚仰天 韓国の対日優越感 | 平成25年11月3日放送 |
| | 小菅玄三郎／大山猛・津留毅／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『日露戦争に学ぶ日本人の気概』

本篇第83弾 全6回

平成25年11月10日、平成25年11月24日～平成25年12月22日

戦後生まれ世代が定年退職をする今、日本人の気概はと問われて、多くの日本人はどう答えるでしょうか。焼け野原からの復興は確かに日本人の気概を見事に示してくれました。そしてそれは戦前の教育を受けた明治大正生まれの世代がなしとげたことでした。

一方、平成に入ってからの政治外交では、これが明治維新を成し遂げた同じ民族かと疑うような、自虐史観、東京裁判史観に汚染された屈辱外交でした。大東亜戦争の敗北という史上初めての敗戦は日本人に予想外の大打撃を与え、政治外交では60数年経たいまもアメリカ占領政策の負の遺産を清算できずにいます。歴史認識と軍事防衛論では信じ難い幼稚な議論が罷り通り世論の多数を占めています。戦後教育、戦後マスコミの弊害をこうむった世代の現実です。

幕末明治は欧米諸国の植民地政策の圧迫を受け、我が日本は独立を守るために懸命の努力を重ね、独立を維持し繁栄を築いてきました。そして、現在、我々は経済的軍事的に台頭してきた中国の侵略的政策の挑戦を受けています。それはかつての欧米列強の帝国主義を髣髴とさせるものです。尖閣諸島を盗み取ろうとする中国の有様は日本人からみれば信じられない虚偽に基づくプロパガンダと軍事力を背景にした攻勢です。我々は現在、領土という国家存立の必須のものを守ることができるのか否かの瀬戸際に立たされています。そして現状は、戦後の東京裁判史観、自虐史観に汚染された世論とマスコミにより国論が分断されています。又韓国にも国論の分断に突け込まれて外交敗北を喫しています。しかし、このよう屈辱的外交は一刻も早く解消せねばなりません。

〈シリーズ〉

- | | | |
|------------|---------------------------|---------------|
| 第1回 | 日露戦争が有色人種に与えた衝撃と希望 | 平成25年11月10日放送 |
| | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第2回 | 金子堅太郎の外交に学ぶ | 平成25年11月24日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |
| 第3回 | 国益外交に徹した小村寿太郎 | 平成25年12月1日放送 |
| | 香月洋一／川口武壽・村上かおり／中実柚菜／なし | |
| 第4回 | ポーツマス講和会議の教訓 | 平成25年12月8日放送 |
| | 小菅亥三郎／木村秀人・津留毅／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 外債募集を成功させた高橋是清 | 平成25年12月15日放送 |
| | 香月洋一／日隈精二・三瀬博己／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 日露戦争には武士道が生きていた | 平成25年12月22日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



国家の存亡がかかった日露戦争は、朝野挙げての戦いとなった。中でも金子堅太郎は、厳正中立の立場にあったアメリカを友好的中立国とし、戦争講和の調停役を引き受けさせる、という政府の密命を帯びて渡米し大変困難な役目ながら、見事、米国にその大役を履行させた。また小村寿太郎は、ポーツマス会議のわが国の全権大使として日露戦争の終結を図った。更に第二次桂内閣では外務大臣を務め、幕末に結んだ不平等条約の改正に乗り出し日露戦争の勝利とともに撤廃し(明治44年)、名実ともにわが国は真の独立国家となった。

日本再発見

『日露戦争に学ぶ日本人の気概(続編)』

本篇第84弾 全6回

平成26年1月12日～平成26年2月16日

戦後生まれ世代が定年退職をする今、日本人の気概はと問われて、多くの日本人はどう答えるでしょうか。焼け野原からの復興は確かに日本人の気概を見事に示してくれました。そしてそれは戦前の教育を受けた明治大正生まれの世代がなしとげたことでした。

一方、平成に入ってから政治外交では、これが明治維新を成し遂げた同じ民族かと疑うような、自虐史観、東京裁判史観に汚染された屈辱外交でした。大東亜戦争の敗北という史上初めての敗戦は日本人に予想外の大打撃を与え、政治外交では60数年経たいまもアメリカ占領政策の負の遺産を清算できずにいます。歴史認識と軍事防衛論では信じ難い幼稚な議論が罷り通り世論の多数を占めています。戦後教育、戦後マスコミの弊害をこうむった世代の現実です。

幕末明治は欧米諸国の植民地政策の圧迫を受け、我が日本は独立を守るために懸命の努力を重ね、独立を維持し繁栄を築いてきました。そして、現在、我々は経済的軍事的に台頭してきた中国の侵略的政策の挑戦を受けています。それはかつての欧米列強の帝国主義を髣髴とさせるものです。尖閣諸島を盗み取ろうとする中国の有様は日本人からみれば信じられない虚偽に基づくプロパガンダと軍勢力を背景にした攻勢です。我々は現在、領土という国家存立の必須のものを守ることができるのか否かの瀬戸際に立たされています。そして現状は、戦後の東京裁判史観、自虐史観に汚染された世論とマスコミにより国論が分断されています。又韓国にも国論の分断に突け込まれて外交敗北を喫しています。しかし、このよう屈辱的外交は一刻も早く解消せねばなりません。



日露戦争における明石元二郎大佐の活躍は、歴史に残る偉業である。陸軍参謀本部参謀次長・長岡外史は、「明石の活躍は陸軍10個師団に相当する」と評しました。ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世は、「明石元二郎一人で、満州の日本軍20万人に匹敵する戦果を上げている」と言って称えました。日露戦争は、明石大佐をはじめそれぞれの日本人が己の地位、己の場所での国家に貢献する戦いを行い、わが国を勝利に導いた戦いであった。

〈シリーズ〉

- | | | |
|-----|-----------------------------|--------------|
| 第1回 | マツヤマはロシア兵捕虜の天国だった | 平成26年1月12日放送 |
| | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第2回 | アメリカで日露戦争の言論戦を戦った日本人たち 岡倉天心 | 平成26年1月19日放送 |
| | 小菅玄三郎／奈田明憲・津留毅／中実柚菜／なし | |
| 第3回 | アメリカで日露戦争の言論戦を担った日本人たち 高峰譲吉 | 平成26年1月26日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |
| 第4回 | 日露戦争の国民世論 | 平成26年2月2日放送 |
| | 香月洋一／日隈精二・小川英造／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 日露戦争に通信技術で貢献した日本人たち | 平成26年2月9日放送 |
| | 香月洋一／木村秀人・村上かおり／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 日露戦争の明石工作に学ぶ | 平成26年2月16日放送 |
| | 小菅玄三郎／萩尾行孝・津留毅／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『15年かけて築いた日台の絆— かけがえのない家族交流・兄弟交流』

本篇第85弾 全6回

平成26年2月23日～平成26年3月30日

今回の慰霊訪問の旅は、昨年11月22日(金)から26日(火)まで4泊5日のAコースと同24日(日)から26日(火)まで2泊3日のBコースが生まれ、会社経営者や会社員、主婦ら全国から33人が参加しました。今回は訪問団結成15周年を記念して初日に中華民国の戦没者を祀る台北の忠烈祠を参拝、哀悼の意を表しました。

慰霊訪問団は、九州不動産専門学校グループの同窓会・九栄会の会員を主力に一般市民の有志らで構成するもので、先の大戦で亡くなった台湾人元日本兵軍人軍属3万3千余柱の慰霊と、台湾の人たちとの親善・友好を、民間団体としては異例の15年に亘って積み重ねてきています。毎年、台中の宝覺寺で行われる慰霊祭に出席するほか、台日文化経済協会などの友好団体との交歓会や現地の人たちとの交流を行っています。「海の彼方のニッポン」を訪ねる旅に賛同者の輪が全国的な拡がりを見せています。

「英霊顕彰なくして誠(まこと)の家族交流・兄弟交流なく、その絆と広がりなくして日台両国の国交回復なし」をモットーに、平成11年から同25年までの15年間で22回訪台し親善友好慰霊訪問活動が行われましたが、その間、訪問団の参加者は延べ461人を数え、訪問団とご縁の出来た現地台湾の皆様は700人を超えました。

今回のシリーズでは、第15次訪問団・33名の参加者や支援者の皆様に交代でご登場いただき旅の感想等を語っていただきます。スライドや写真もご覧いただきながら、今までとこれからの日本と台湾の関係を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

- | | | |
|-----|---|--------------|
| 第1回 | 忠烈祠、中華民国外交部表敬訪問、林森公園、黄文雄先生による歓迎の夕食会 | 平成26年2月23日放送 |
| | 小菅亥三郎／原田泰宏／中実柚菜／池田裕二 | |
| 第2回 | 二峰圳地下ダム、喜楽發森林公園、東龍宮、保安堂、台湾支部長ご夫妻による歓迎の夕食会 | 平成26年3月2日放送 |
| | 木村秀人／松俵義博／中実柚菜／池田裕二 | |
| 第3回 | 海尾朝皇宮、飛虎將軍廟、烏山頭ダム、八田與一・外代樹ご夫妻墓所、殉工碑、八田與一記念館、八田與一記念公園、台湾台日海交會による歓迎の夕食会 | 平成26年3月9日放送 |
| | 小菅亥三郎／木村秀人・林紀全／中実柚菜／池田裕二 | |
| 第4回 | 宝覺寺、日本人墓地、靈安故郷碑、台湾中日海交協会による歓迎の昼食会、濟化宮、台日文化経済協会による歓迎の夕食会 | 平成26年3月16日放送 |
| | 小菅亥三郎／永田昌巳・李玲萱／中実柚菜／池田裕二 | |
| 第5回 | 高砂義勇隊戦没英霊記念碑 | 平成26年3月23日放送 |
| | 小菅亥三郎／大西雅樹・佐竹聖子・チュン・デュウ・ハ／中実柚菜／池田裕二・茅野輝章 | |
| 第6回 | 第15次台湾慰霊訪問の旅を終えて | 平成26年3月30日放送 |
| | 小菅亥三郎／津留毅・永濱浩之／中実柚菜／池田裕二 | |

※ 出演者は コメントーター/ゲスト/パーソナリティ/アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



日華(台)親善友好慰霊訪問団は、この15年間に461人が訪台し、大東亜戦争の為に散華された元日本兵軍人軍属3万3千余柱に、毎年感謝と哀悼の誠を捧げてきた。第15次慰霊訪問団は、日本時代に台湾護國神社があった國民革命忠烈祠(台北)への正式参拝を果たした。

日本再発見

『安倍首相は毎年靖國参拝をすべし』

本篇第86弾 全6回

平成26年4月6日～平成26年5月11日

安倍首相は昨年12月26日靖國神社を参拝しました。日本の首相として当然のことをしたに過ぎません。首相の靖國参拝の本質はこのことを措いて外にありません。英霊顕彰は国家と国家指導者の最低限の責務です。

国家の命令で国家のために斃れた国民を誉め称え感謝し追悼せずして、どうして国民は自らの命をかけて国を護るのでしょうか。命をかけて国を護る国民のいない国家は衰亡するのは必定です。国家には国民が命をかけて護らねばならない時があります。

死は時に不条理です。戦死あるいは殉職は避けることは出来ません。そして本人はもちろん残された遺族にとって唯一の慰めは顕彰と感謝と追悼しかありません。英霊顕彰は国家にとって自明のことです。この自明なことがそうではなくなったのは当時の首相中曽根康弘氏が中国の指導者の保身を慮って靖國参拝を中止したことが中国に外交カードとして使えると突け込まれてからです。国家の責務たる英霊顕彰をあろうことか外国の権力闘争の道具に献上するという愚かなことをしてかしたのです。中曽根氏が萬死に値すると指弾されるのも尤です。内政干渉を手引きしたと非難されるのも当然です。外国から内政干渉をうけることほど国家にとって恥辱はありません。まして我が日本が中国から内政干渉をうけることは耐え難いことです。聖徳太子以来の中華秩序拒否という先人たちの気概を踏みにじるものです。我々は中国の内政干渉を敢然と峻拒している国があることを忘れてはなりません。米国はオバマ大統領がダライラマと会談し、仏のサルコジ大統領もダライラマと会談し、ノルウェーは報復の脅しにも屈せずにノーベル平和賞をダライラマに与え、またその後も中国人権活動家に与えました。内政干渉は拒否するというのは国家の在り方を決定するものです。わが日本には内政干渉は似合いません。

安倍首相には来年も靖國参拝をするしか道はありません。安倍外交は靖國参拝を前提にして組み立てるべきです。我々は安倍首相が第二の中曽根康弘の不名誉を蒙ることはない信じています。



平成26年12月26日、安倍首相は首相として初めて靖國神社参拝を果たした。第1次政権の時より首相としての参拝を望みながら適わず、第2次政権発足の丁度1年目のこの日に実現した。小泉首相の平成18年8月以来7年4カ月ぶりの首相参拝となった。本来、国のために命をかけて戦った戦没者に対する慰霊や追悼は、国家を担う為政者の重要な務めであり、他国から干渉される謂われはない。このような外交的配慮を強いられているのは、世界でもわが国だけである。1日も早い独立不羈の対応が求められる。

〈シリーズ〉

- | | | |
|------------|-----------------------------|--------------|
| 第1回 | 首相の靖國参拝を前提に外交すべし | 平成26年4月6日放送 |
| | 香月洋一／奈田明憲・村上かおり／中実柚菜／なし | |
| 第2回 | 我が国に戦犯はいない | 平成26年4月13日放送 |
| | 小菅亥三郎／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし | |
| 第3回 | 首相の靖國参拝は憲法違反ではない | 平成26年4月20日放送 |
| | 小菅亥三郎／木村秀人・津留毅／中実柚菜／なし | |
| 第4回 | 靖國参拝反対は愚論である | 平成26年4月27日放送 |
| | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 靖國神社は英霊を顕彰するためにある | 平成26年5月4日放送 |
| | 日隈精二／小川英造／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 中国の靖國参拝反対の理由は嘖飯ものである | 平成26年5月11日放送 |
| | 香月洋一／川口武壽・村上かおり／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『中共の台湾攻略を阻止せよー 中台兩岸サービス貿易協定とひまわり学生運動』

本篇第87弾 全6回

平成26年5月18日～平成26年6月22日

今年3月16日夜、台湾政庁の立法院に台湾の学生たちが突入し、台湾全土に大きな波紋を広げつつ、24日間にわたり占拠するという事件が起こりました。去年6月に台湾と中共との間に決められた「サービス貿易協定」に反対する学生たちの実力行動です。台湾700万人の雇用が大陸に奪われ、流入する中国人(=支那人)によって台湾の高い民度が破壊される可能性が出てきたのです。

金融と通信情報を中共が握り、台湾が中共化すれば、「海の彼方のニッポン」である台湾はなくなり、日台の絆は切られてしまいます。台湾海峡は中共の海となり、尖閣は奪われ、沖縄が直接の脅威にさらされ、日本の存立を脅かす戦後最大の危機がわが国を襲う可能性が出てきていたのです。馬政権による「サービス貿易協定」の推進は一応阻止されましたが、中共側はすでに国民党(=中国国民党)を介してこの運動に対抗する情報戦に入っています。1996年李登輝総統が台湾国民の直接選挙によって選ばれてから26年、台湾民主化の中で育った若者たちの、暴力破壊をとまなわない今回の運動は、ここ数年東南アジア、中近東、北アフリカ、ウクライナと、世界中で見られる過激な政治社会運動とは一線を画しています。また、わが国で戦後行われた左翼指導の学生運動とも違い、はるかに成熟し愛国心に満ちています。占拠した立法院を退去するときは、ごみ一つ残さず、テープや張り紙の類も跡形なく掃除しました。一方、わが国では憲法改正を控え、18歳以上がこれから国政に参加することになります。日本の若者たちは台湾の若者たちのようにその成熟さと愛国心を発揮できるでしょうか。今回のシリーズは、台湾の問題を台湾の留学生諸氏に語ってもらい、その生の声をリスナーの皆様にお届けしたいと思います。



台湾と中国の間で結ばれた『サービス貿易協定』が、中国からの大量移民を招くことが予想され、台湾が第二のチベット、第二のウイグルになる危険性から学生が立ち上がった。3月16日から24日に互って立法院(国会に相当)を占拠。また総統府前に11万人(学生は35万人以上と発表)が集まった大規模な抗議デモが行われた。

〈シリーズ〉

- | | | |
|------------|-------------------------------------|--------------|
| 第1回 | 台湾民主化の天王山ー理性的な行動に徹したひまわり学生運動 | 平成26年5月18日放送 |
| | 小菅玄三郎／許彩誠・高野隼平／中実柚菜／原田泰宏 | |
| 第2回 | 中共に反抗して65年 | 平成26年5月25日放送 |
| | 木村秀人／許彩誠・陳瑞敏／中実柚菜／津留毅 | |
| 第3回 | サービス貿易協定と日台関係 | 平成26年6月1日放送 |
| | 津留毅／林紀全・高野隼平／中実柚菜／原田泰宏 | |
| 第4回 | 私たちが国民が応援したひまわり学生運動 | 平成26年6月8日放送 |
| | 津留毅／許彩誠・黄楷榮／中実柚菜／なし | |
| 第5回 | 台湾の夜明けをたぐりよせた台湾人の当事者意識 | 平成26年6月15日放送 |
| | 原田泰宏／林紀全・高野隼平／中実柚菜／なし | |
| 第6回 | 日本と日本人に期待するもの | 平成26年6月22日放送 |
| | 小菅玄三郎／許彩誠／中実柚菜／なし | |

※ 出演者は コメントーター/ゲスト/パーソナリティ/アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

年 末 年 始 企 画

平成25年の年末の放送(平成25年12月29日放送)は、平成24年12月に衆議院議員選挙に自由民主党公認候補として見事、初当選を果たされ、国会議員として精力的に活動されている鬼木誠衆議院議員にご登場いただきました。

平成25年4月12日の衆議院予算委員会第2分科会で質疑に立たれた先生はNHKの「反日報道」を痛烈に批判。国会の場で公共放送のあり方を糾されたのをきっかけにNHKの改革がなされようとしています。

今回は平成25年を締めくくりにあたり、先生に国会議員になられての1年間を振り返っていただくと共に、平成26年の抱負を「マスコミを日本人の手に取り戻す道」と題して語っていただきました。

平成26年の年頭の放送(平成26年1月5日放送)は、安倍内閣の文部科学副大臣として教育再生に邁進しておられます自由民主党選出の西川京子衆議院議員にご登場いただきました。

今回、前半はその西川先生に文部科学副大臣として教育再生に向けての抱負等を語っていただき、視聴者の皆様と共に考え、その決意を共同のものにしていきたいと思ひます。後半では平成25年12月20日に開催された「スタジオ日本・日曜討論番組を支える会」の「年末総会・新会員歓迎会」での、先生の講演内容を録画でご覧頂きたいと思ひます。



平成25年12月29日の放送より



平成26年1月5日の放送より

〈これまでの年末年始篇〉

- | | |
|---|---------------|
| 1. 台湾前総統李登輝先生とお会いして | 平成15年12月28日放送 |
| 2. 日曜討論を振り返って | 平成16年1月4日放送 |
| 3. 慰霊は日台の魂の交流 | 平成16年12月26日放送 |
| 4. 台湾からのメッセージ | 平成17年1月2日放送 |
| 5. 平成18年日本の課題を展望する | 平成18年1月1日放送 |
| 6. 海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて－慰霊は日台の魂の交流 | 平成18年1月8日放送 |
| 7. 海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて－台湾防衛は英霊との約束 | 平成19年1月7日放送 |
| 8. 頑張ろう、日本。遠藤宣彦衆議院議員に聞く | 平成21年1月4日放送 |
| 9. 日台魂の交流に触れて | 平成22年1月3日放送 |
| 10. 韓半島の情勢と大学生による日韓交流秘話－
日韓連携で拉致問題の解決を目指して | 平成23年1月2日放送 |
| 11. 日本再生は保守を旗幟(はたじるし)にして | 平成24年1月1日放送 |
| 12. 日台・魂の絆、第14次慰霊訪問の旅を終えて | 平成24年12月23日放送 |
| 13. 今年の日本の政治の総括と来年の展望 | 平成24年12月30日放送 |
| 14. 参議院議員 中山恭子先生に聞く－親日国家ウズベキスタン | 平成25年1月6日放送 |
| 15. 衆議院議員 鬼木誠先生に聞く－マスコミを日本人の手に取り戻す道 | 平成25年12月29日放送 |
| 16. 文部科学副大臣 西川京子先生に聞く－教育再生こそ国づくりの根幹 | 平成26年1月5日放送 |

特 別 企 画

視聴者の皆様は中共が2010年に制定した「国防動員法」というものをご存知でしょうか。その年の2月26日に採択、公布され、7月1日に施行されています。しかし、これは実に26年にも及ぶ準備をかけて作られたものです。

「バラ色の中国ビジネスに投資を!」「14億の民が日本の企業進出を待っている!」等々の甘いスローガンや垂れ幕が、政府の唱導する「日中友好」ムードと相乗的に作用し、わが国が、その国富と国民を丸ごと中共に捧げなければならない様な雰囲気包まれたのは、ほんの30~40年前のことでした。中共に進出、というより甘言を弄して誘い込まれた企業が大なり小なり被害を被っています。

平成25年11月17日の放送では「【中国問題】恐怖の民事訴訟法第231条—進出した日台企業を身ぐるみ剥ぎ取る独裁中国の国家犯罪を暴く」と題して特別番組をお送りしました。廣瀬勝氏は中国での経験により多くの日本人に知らしめるべく、かつ対中ビジネスを計画している企業に予めその恐ろしさを告知すべく、「中国投資を警告する日台共闘の会」を設立いたしました。

今回は廣瀬氏にその経験談を大いに語っていただき、映像と音声を残すことにより、わが国の対中投資の姿勢をより慎重なものにしていく一助にしたいと思います。



平成25年11月17日の放送より

〈これまでの特別篇〉

1. 時事問題/竹島問題を考える	平成17年3月20日放送
2. 時事問題/“百人斬り”は冤罪だ	平成17年5月29日放送
3. 教育問題/ゆとり教育を問い直す	平成17年12月18日放送
4. 時事問題/皇位継承と皇室典範改定	平成18年2月12日放送
5. 台中問題/ようこそ、第8次日華(台)親善友好慰霊訪問団へ	平成18年10月1日放送
6. まちづくり問題/よりよい福岡市づくりを	平成18年10月8日放送
7. くにづくり問題/世界一日本に自信と誇りを	平成19年8月5日放送
8. 時事問題/沖縄戦集団自決の真相と教科書検定	平成19年10月14日放送
9. 時事問題/沖縄戦集団自決は軍命令ではない①	平成19年11月18日放送
10. 時事問題/沖縄戦集団自決は軍命令ではない②	平成19年11月25日放送
11. 時事問題/教科書問題と沖縄県民の総意	平成19年12月2日放送
12. 時事問題/中国の工作から沖縄を守れ	平成19年12月9日放送
13. 時事問題/天皇陛下御即位20年奉祝を全国各地で!	平成20年7月27日放送
14. 時事問題/田母神論文と村山談話	平成20年11月16日放送
15. まちづくり問題/歌と町おこし—故郷(ふるさと)を歌う	平成21年9月6日放送
16. 時事問題/永住外国人地方参政権は実現させてはならない	平成21年10月4日放送
17. 時事問題/ちよつとまって! 夫婦別姓	平成21年12月13日放送
18. 時事問題/「千船保釣」を阻止せよ! —沖縄・尖閣諸島を守るわれらが闘い	平成23年8月7日放送
19. 時事問題/自民党地方組織・議員総局長衛藤晟一参議院議員に 聞く 民主党が進める危険な法案と尖閣問題の行方	平成23年8月21日放送
20. まちづくり問題/歌と町おこし—国民が育つ郷土づくりを	平成24年7月15日放送
21. まちづくり問題/福岡の恥・高島宗一郎市長の“中国公務員4,000人採用発言”を斬る	平成24年8月12日放送
22. 中国問題/恐怖の民事訴訟法第231条 —進出した日台企業を身ぐるみ剥ぎ取る独裁中国の国家犯罪を暴く	平成25年11月17日放送

番組開始周年企画

平成23年6月5日には、文明史家 黄文雄先生をお迎えしました。黄文雄先生は、中国人も日本人と変わらないとの幻想や、又、日本は中国を侵略したとの自虐史観が溢れていた日本で、いち早く「中国4000年の歴史は嘘である」、「アヘン戦争は中国の周辺諸国を中華秩序から解放した」、「日本は中国が長年かかって実現できなかった近代国家を満州にわずか数年で誕生させた」など、日本人にはない、独特の視点から中国を鋭く分析する著作を次から次へと発表され、我が国の論壇に大きな一石を投じてられました。中国人は日本人といったいどう違うのか先生にお伺いしました。



平成23年6月5日の放送より

〈これまでの番組開始周年篇〉

- | | |
|---|---------------|
| 1. 真の日中友好を考える①(日中再考-似て非なる隣人) | 平成16年 9月26日放送 |
| 2. 真の日中友好を考える②(反日中国に如何に対応すべきか) | 平成17年 7月 3日放送 |
| 3. 真の日中友好を考える③(増大する覇権主義中国の軍事的脅威に
日台は如何に対応すべきか) | 平成19年 6月 3日放送 |
| 4. 軍人墓地の管理は国の責任である | 平成21年 8月23日放送 |
| 5. 福岡城と陸軍 | 平成21年10月11日放送 |
| 6. 黄文雄先生 日本、中国の文化・政治・歴史を語る | 平成23年 6月 5日放送 |

意見広告・インターネット 広報活動

〈産経新聞意見広告掲載〉

- | | |
|--|----------------|
| 1. 「日本に移民は必要か」全5段 | 平成22年5月13日(木) |
| 2. 「尖閣諸島は先祖から受け継いだ
私たち日本の国の領土です。」全5段 | 平成22年10月22日(金) |
| 3. 「九州電力に感謝し、心から応援します。」全5段 | 平成23年11月4日(金) |
| 4. 「待望の『日曜討論全番組アーカイブス』
4月公開!」全5段 | 平成24年2月27日(日) |
| 5. 「福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん 国を
売るのはおやめなさい。」その1 全5段 | 平成24年8月5日(日) |
| 6. 「福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん 国を
売るのはおやめなさい。」その2 全5段 | 平成24年8月6日(月) |

〔日曜討論HPお知らせ〕

- | | |
|--|------------|
| 1. 『捏造の歴史教育にストップ』ホワイトハウス請願サイトに
ご協力を!」 | 平成24年4月24日 |
| 2. 『「米の慰安婦像撤去請願に署名を!」
ホワイトハウス請願サイトにご協力を!」 | 平成24年5月16日 |



スタジオ日本 特別報道番組

スタジオ日本では、私たちが国民の皆様には是非知って欲しいと願っているテーマの講演内容を取材し、広く世に発信しています。今日のマスコミやメディアでは決して報道されることのない催しを、インターネットを利用して世界中に配信してまいります。明日の日本人である私たちの子孫のために「誇りある国づくり運動」のメディア部門の一環として、日曜討論と同様、この番組も大いに視聴ください。

〈平成25年7月から平成26年6月までの特別報道番組〉

7. 第24回「九栄会」夏季講演会 平成25年7月20日(土)放送

瓜生晋一郎先生(福岡県立高等学校教諭)

「平家物語から現代社会が学ぶもの」

井上政典先生(歴史ナビゲーター)

「黒田官兵衛と福岡」

主催:九州不動産専門学校グループ同窓会「九栄会」



第24回「九栄会」夏季講演会

8. 第9回 追悼・感謝 英霊顕彰・県民の集い 平成25年8月4日(日)放送

江崎道朗先生(評論家)

「ヴェノナ文章が暴いたルーズヴェルトの戦争責任」

主催:日本会議福岡



第9回追悼・感謝英霊顕彰県民の集い

9. 第7回「支える会」定期総会・記念講演会 平成25年8月25日(日)放送

葛目浩一先生(新聞「アイデンティティ」主幹)

「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革

ー東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」

主催:スタジオ日本 日曜討論番組を支える会



第7回「支える会」定期総会・記念講演会

10. 第12回 台湾特別講演会 平成26年6月8日(日)放送

「日台の魂の交流 黄文雄先生 福岡講演 連続10回記念」

基調講演 黄文雄先生(文明史家)

演題:「日本人が台湾に遺した武士道精神ー台湾と日本を結ぶ日本精神」

パネルディスカッション「私たちは日本を取り戻す」

黄文雄先生(文明史家)

「私たち原日本人は大切なものを忘れてしまった」

施光恒先生(九州大学大学院准教授)

「台湾の中のニッポンー日本人が取り戻すべき心とは」

柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)

「台湾人戦犯死没者の遺書について」

コーディネーター:小菅玄三郎(日華(台)親善友好慰霊訪問団団長)

主催:日華(台)親善友好慰霊訪問団



第12回台湾特別講演会

〈平成25年6月以前の特別報道番組〉

1. 第5回「支える会」定期総会・記念講演会 平成23年8月21日(日)放送 主催:スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

2. 第10回 台湾特別講演会 平成24年6月3日(日)放送 主催:日華(台)親善友好慰霊訪問団

3. 第23回「九栄会」夏季講演会 平成24年7月21日(土)放送 主催:九州不動産専門学校グループ同窓会「九栄会」

4. 第8回 追悼・感謝 英霊顕彰・県民の集い 平成24年8月5日(日)放送 主催:日本会議福岡

5. 第6回「支える会」定期総会・記念講演会 平成24年8月26日(日)放送 主催:スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

6. 第11回 台湾特別講演会 平成25年6月2日(日)放送 主催:日華(台)親善友好慰霊訪問団

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに休日なし 支える会の活動と実績

●「日曜討論」番組の誕生

平成15年8月30日に福岡市南区高宮の女性センターアミカスで「男女共同参画社会を考える」(日本会議福岡時局部会、主催)という講演会が開かれました。講師の伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長)は「今、福岡市が制定に向けて進めている『男女共同参画基本条例』は恐るべき『白い革命』にほかならない」と喝破し、この条例の包蔵する危険性を訴えました。

この会場に聴衆として参加していた福岡コミュニティ放送(株)の淵上高当氏はその呼びかけに応じ、番組を立ち上げました。それが「FM-MiMi日曜討論」でした。シリーズ「男女共同参画を考える」(コメン



テーター:小菅玄三郎、メインゲスト:山口敏昭氏)として、平成15年10月5日から、毎日曜日に連続6回に亘って放送されましたが、西日本新聞にも掲載され、その反響は数千件のパブリックコメントが福岡市に寄せられるひとつの契機となりました。

●「日曜討論番組を支える会」の設立

反日的マスメディアの幅をきかすわが国にあって、国民の立場から情報発信を行うことは画期的なことでした。平成17年8月には番組のスポンサーとして「支える会」を設立し、わが国の国益を守る立場から情報発信する橋頭保として、爾来11年間、放送主体の変更を伴いながらも、毎日曜

日に欠かすことなく放送を継続してまいりました。

平成24年夏の福岡市中国公務員4千人採用問題では、「支える会」として産



経新聞に意見広告を掲載、後援団体の日本会議福岡の協力で、特集番組を放送し、広範な市民の支持を得て、計画の撤回を勝ち取ることができました。

●閉ざされた言語空間を開放する「空中図書館」

「日曜討論」番組は平成22年11月にはインターネット(ユーストリーム)による放送を開始。アーカイブでの視聴も可能となり、世界中どこからでも、いつでも番組を視聴できるようになりました。番組で取り上げたテーマは平成26年6月現在、全91シリーズ561回に及び、真正保守の立場から重要な資料、真実の情報を視聴できるメディアライブラリーとして注目を集めています。戦後閉ざされて久しい言語空間を国民の側に奪還するため、「誇りある国づくり運動」のメディア部門として、ますます「日曜討論」番組に期待が寄せられています。



「スタジオ日本 日本人講座」の開設

今日のマスメディア、マスコミの世界は「戦後秩序の遵法者」として、日本人の悪い面のみを探し求め、反日的、自虐的視座に基づく報道に終始しています。それは大東亜戦争後の占領軍によるウォー・ギルト・インフォメーション・プログラムの残滓であり、先祖から受け継いだわが国、日本の国体、縦の糸の分断工作に他なりません。

「日本人講座」の主眼は私たち日本人が見失った「日本」を再発掘することであり、今を生きる日本人の務めとして、過去の日本人を甦らせ、その甦った日本人を通して、現在の日本のあり方を問い直して行くことです。

「日本人講座」は「スタジオ日本日曜討論」に出演していただき、言論戦の領域で行動を起こしてもら

ための準備講座です。まさにこの講座は「日曜討論番組」を担っていたべく伴走者育成のための「師範講座」です。





番組を支える スタッフ の皆さん

「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」でより良い番組を制作するため、出演者ならびに関係先との連絡調整等「日曜討論」の放送を陰で担っているスタッフの皆さんからコメントを頂きましたのでご紹介します。



なかみ ゆな
中実 柚菜

日曜討論のパーソナリティーとして参加させていただき、早いものでもう9年の月日が流れようとしています。この番組を通してさまざまな方と出会い、今まであまり考えていなかった日本という国について深く考える機会をいただいた事は、私にとっては意義深く、番組に参加できてとても有難い事と感じています。

一人ひとりが事実を知り、しっかりと考えて行動できるように、この

番組では今起こっている出来事やその裏側にある真実を解りやすく伝えていけたらと思っています。ひとつひとつのテーマから自分の身に引き付けて真剣に考えてもらえるように願っています。

難しい言葉ではなく誰にでもわかる言葉で発信することで政治に興味のない人にもこの番組を聞いてもらえたら幸いです。



おの みさと
小野 実里

産経新聞以外の報道の世界からは、日本の歴史の真実や、これからの日本を伝統や文化に根ざして如何にして守っていくのか、という声は聞こえにくいのが現状です。その中であって、日本の「真実の声」を伝えることが出来る番組を構成されていることは、心強いものと感じてお

ります。

誇りある日本を伝えるために、小菅さんをはじめ、香月さんや中実さん、出演者の方々、事務局の皆様の大変なご苦勞があつて、欠かさず「日曜討論」が続いていることに敬意を表します。



いのうえ くみこ
井上 久美子

支える会の事務局の井上です。会員の皆様にはいつもご支援、ご協力いただきましてありがとうございます。事務局での仕事も2年目に突入し、微力ながらもこのようなことに関わられることを大変嬉しく思います。

この1年を振り返って、「日本人として」「日本人だから」という考えで行動することが増えてきたようです。毎日のように、小菅代表世話人や会員の皆様の考えを聞くことで

きる立場にあり、いままで学校等では教えられなかったことを勉強でき、少しずつ「日本人」になっていくことが嬉しく、仕事をもっと頑張つて成長したいと思っています。

しかし、仕事を頑張り過ぎると婚期が遅れてしまい、少子化に拍車をかけることになるのではと、そのあたりがうまく行けばいいと思っています。井上、26歳、独身ですから・・・。

三つの不可能を可能にした支援者の力

- 1 スポンサーなしで番組を継続させている
- 2 謝礼無しで出演の連鎖を維持している
- 3 出演者をはじめとする広範な支援者の資金負担で
独自のスタジオを起ち上げ放送を継続させている

ご支援ありがとうございます。

誇りある国づくりへ
国民の力を！

日本会議経済人同志会

☎(03)3476-5611

〒153-0042
東京都目黒区青葉台3-10-1
青葉台上毛ビル601

福岡県知事認可 専修学校

(専)ライセンスカレッジ

☎(092)721-0100

〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

内科

(医)香月内科医院

☎(0949)22-3520

〒822-0007
福岡県直方市下境1147-2

家族の強化・家庭の復活

教育研究会未来

☎(075)257-1805

〒604-8136
京都市中京区梅忠町三条通烏丸東入ル
中井ビル2階

総合建設業

松俵建設(株)

☎(0948)42-1033

〒820-0205
嘉麻市岩崎1554-10

家具製造・販売

(株)関家具

☎(0944)88-3515

〒831-0033
大川市幡保98-7

各種食品小売業

亜細亜物産(株)

☎(0820)56-5001

〒742-1102
山口県熊毛郡平生町平生村
821-6

九州不動産専門学院グループ
同窓会

九栄会

☎(092)714-4341

〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

京懐石

松 幸

☎(092)712-1331

〒810-0042
福岡県福岡市中央区赤坂3-4-6
(護国神社前・コアマンション横)

不動産取引

光志興産(有)

☎(0948)42-6660

〒820-0203
福岡県嘉穂市平607-1

国を愛する新しい
国民運動ネットワーク

日本会議福岡

☎(092)641-3263

〒812-0044
福岡市博多区千代4-30-2
山本ビル4階

賃貸管理・住宅販売・ビル事業企画

(株)リライエステート

☎(092)282-5115

〒812-0018
福岡市博多区住吉1-6-9

『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

皆様のご入会を心からお待ちしています

役員さんをご紹介します。

顧問	西川京子	衆議院議員	世話人	山口敬之	教育研究会未来
顧問	鬼木 誠	衆議院議員	世話人	施 光恒	九州大学大学院准教授
顧問	山本泰藏	日本会議福岡理事長	世話人	木村秀人	元高等学校教諭
顧問	多久善郎	日本協議会理事長	世話人	矢ヶ部大輔	福岡教育連盟執行委員長
顧問	北村弥枝	教育研究会未来理事長	世話人	川口武壽	(有)ハーベスト代表取締役社長
顧問	小山和伸	神奈川大学経済学部教授	世話人	安倍輝彦	(財)北九州上下水道協会非常勤理事
相談役	松俵義博	松俵建設(株)会長	世話人	吉田重治	元独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究参与
相談役	関 文彦	(株)関家具代表取締役	世話人	原田泰宏	九州伝承遺産ネットワーク特別顧問
相談役	角 洋一郎	九栄会会長	世話人	津留 毅	広告代理店勤務
相談役	三好 誠	日本ベンクラブ会員	世話人	梶栗勝敏	日本会議福岡事務局長
代表世話人	小菅玄三郎	(専)ライセンスカレッジ理事長	営業	井上久美子	(株)日本教育開発
副代表世話人	香月洋一	(医)香月内科医院理事長	営業	中村那津子	(株)日本教育開発
世話人	伊藤 侑	伊藤メディアリテラシー研究所所長	会計	茅野輝章	(株)日本教育開発
世話人	田中道夫	(株)ハウジングアーキテックチャーCEO	監事	日隈精二	染呉服ますや店主

(順不同)

成就するまで継続します。(すべて数値は平成26年6月30日現在です。)

〈平成15年10月から平成26年6月までの10年9ヶ月の記録〉 ※なお、項目は発生順におこしました。

- 放送 561回(但し、1回2.5時間) 1,402.5時間
- 出演者 延べ2939名 正味379名 ※内訳は正味379名の分で()内は国土地理院の都道府県コードです。
性別 男265名、女114名
地域別 北海道・東北(1-7) 1名 中国(31-35) 6名
関東(8-14) 28名 四国(36-39) 0名
中部・北陸(15-23) 2名 九州(40-47) 330名
近畿(24-30) 10名 台湾 2名
- 贈呈CD(テープ) 3,907枚(本) ※ご出演いただいた方には、放送の収録CD(テープ)を贈呈! 原則1人2枚(本)!
- 慰労会 5回
①平成15年11月 9日(日) 淵上様による 9名 梅の花
第1回「男女共同参画を考える」シリーズを終えて
②平成15年12月21日(日) 淵上様による 9名 梅の花
第2回「歴史教育を考える」シリーズを終えて
③平成16年 4月 4日(日) 淵上様による 13名 ウォーターリリー
第4回「海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて」シリーズを終えて
④平成16年 9月26日(日) 山口様による 14名 花万葉
第8回「愛は家庭から」シリーズを終えて
⑤平成17年 3月 5日(土) 山口様による 15名 花万葉
第11回「家族の絆」シリーズを終えて
- 集大成作業 10回(但し、①は特集記事、②以降は特集号)
①平成16年6月号 通巻No.513 部数10,000 標語:子供は未来からの客人
②平成17年9月号 通巻No.528 部数 5,000 表紙:尖閣
③平成18年6・7月合併号 通巻No.533 部数 5,000 表紙:竹島
④平成19年春号 通巻No.537 部数 3,000 表紙:亀山上皇の像(元寇)
⑤平成20年秋号 通巻No.543 部数 3,000 表紙:靖國神社
⑥平成21年夏号 通巻No.546 部数 2,400 表紙:対馬
⑦平成22年夏号 通巻No.550 部数 1,000 表紙:与那国島
⑧平成23年秋号 通巻No.554 部数 1,000 表紙:東日本大震災
⑨平成24年秋号 通巻No.558 部数 1,000 表紙:中国公務員4,000人採用問題で揺れる福岡市
⑩平成25年秋号 通巻No.561 部数 1,000 表紙:離島奪還作戦(日米共同訓練)
- 総会他 10回(但し、懇親会含む)
①平成16年8月 8日(日) 発起人会 24名 花万葉
②平成17年8月21日(日) 設立の集い 32名 平和樓
③平成18年8月20日(日) 準備総会 32名 テラホール
④平成19年8月19日(日) 第1回定期総会 38名 スカイホール
⑤平成20年8月17日(日) 第2回定期総会 44名 スカイホール
⑥平成21年8月23日(日) 第3回定期総会 47名 スカイホール
⑦平成22年8月22日(日) 第4回定期総会 103名 テラホール
⑧平成23年8月21日(日) 第5回定期総会 82名 テラホール
⑨平成24年8月26日(日) 第6回定期総会 71名 テラホール
⑩平成25年8月25日(日) 第7回定期総会 58名 テラホール

会則をご覧下さい。

- 第1条 (名称)
本会は「スタジオ日本『日曜討論』番組(以下「番組」と称す)を支える会」と称する。
- 第2条 (事務局)
本会の事務局は福岡市中央区天神1-3-38に置く。
- 第3条 (目的)
本会は①「誇りある国づくり」のための番組の継続。
②番組の放送主体であるスタジオ日本(以下「スタジオ」と称す)の後援。
③出演者(制作者含む)相互の研鑽及び親睦をその目的とする。
- 第4条 (会員)
本会の会員は次の3種とする。
①特別会員 本会の目的に賛同し、本会の事務局を支援するため、入会金、賛助金1口以上を納める法人又は個人。
②正会員 本会の目的に賛同し、入会金、年会費を納める者。
③番組会員 本会の目的に賛同し、番組成立のため協力でき、入会金、年会費を納める者。
- 第5条 (入会)
本会に入会を希望する者は所定の申込手続により、入会することができる。
- 第6条 (会費)
本会の経費は入会金、賛助金、会費、寄付金をもってこれに充当する。
①会員として入会を希望する者は、入会金として1,000円を入会と同時に納入する。
②特別会員の賛助金(1口)は法人120,000円、個人10,000円とし、入会と同時に納入し、次年度以降は3月末日迄に納入する。
③正会員の会費は年額5,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。
④番組会員の会費は年額3,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。
- 第7条 (会計年度)
本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。
- 第8条 (役員)
本会に次の役員を置く。
顧問 若干名 有識者他。
相談役 若干名 有識者他。
代表世話人 1名 会を代表し、会務を統括。
副代表世話人 1名 代表世話人を補佐し、番組を企画。
世話人 若干名 代表世話人の命を受けて、会務を処理。
営業 1名 会員募集。
会計 1名 会計事務処理。
監事 1名 会計監査。
- 第9条 (役員任期)
役員任期は1年とし、再任を妨げない。
- 第10条 (役員選任)
①世話人は会員のうちから、代表世話人、副代表世話人は世話人のうちからそれぞれ役員会において選任する。
②営業は会員募集、会計は会務処理を行う。
- 第11条 (役員会)
役員会は代表世話人が必要に応じ招集する。
- 第12条 (総会)
総会は原則として毎年8月にスタジオとの調整をとり開催することとし、代表世話人及び役員会において必要と認めるときには、臨時総会を開催することができる。
- 第13条 (総会の構成及び議決)
総会は会員の出席をもって成立し、議事については出席会員の過半数の賛成で議決する。

7 支える会	216名(但し、累計) 性別 男183名、女33名	種別 内訳	特別会員(法人) 13社 特別会員(個人) 37名	正会員 74名 番組会員 92名
8 かわら版	93回 発行期間 平成18年6月の第1号以来、平成26年6月の第93号まで、毎月20日に発行 発行部数 18,978部(93回ゆえ平均204部)			
9 記念講演会	7回 ①平成19年8月19日(日) 第1回記念講演会 38名 スカイホール 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会) 「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」 ②平成20年8月17日(日) 第2回記念講演会 44名 スカイホール 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会) 「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」 ③平成21年8月23日(日) 第3回記念講演会 47名 スカイホール 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会) 「偏向報道の連鎖を断ち切ろう —NHKスペシャル『JAPANデビュー』の偏向報道の裏にあるもの」 ④平成22年8月22日(日) 第4回記念講演会 103名 テララホール 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授) 「日本文化・文明の本質—参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」 ⑤平成23年8月21日(日) 第5回記念講演会 82名 テララホール 江崎道朗先生(日本会議専任研究員) 「マスコミの報じない歴史の真実／開戦70周年 —東京裁判史観の見直しがアメリカで始った」 ⑥平成24年8月26日(日) 第6回記念講演会 71名 テララホール 小山和伸先生(メディア報道研究政策センター理事長) 「反日国家の対日政策に呼応、国家崩壊を目論む内なる敵 反日メディアを糾す」 ⑦平成25年8月25日(日) 第7回記念講演会 58名 テララホール 葛目浩一先生(新聞「アイデンティティ」主幹) 「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革-東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」			
10 年末総会・新会員歓迎会	5回 ①平成21年12月11日(金) 24名 花万葉 ②平成22年12月10日(金) 40名 松幸 ③平成23年12月 9日(金) 35名 松幸 ④平成24年12月21日(金) 60名 松幸 中山恭子先生(衆議院議員)「あの日、あの時。」 ⑤平成25年12月20日(金) 50名 松幸 西川京子先生(文部科学副大臣)「教育再生こそ国づくりの根幹」			
11 スタジオ運営にともなう専任技術者研修会	3回 ①平成23年 3月 2日(水) 7名 てら岡 ②平成23年11月 9日(水) 10名 松幸 ③平成24年 6月24日(日) 9名 花万葉			

番組開始11周年

「支える会」のあゆみ

平成12年	3月 3日	FM-MiMi開局…1
平成15年	8月30日	日本会議福岡主催の時局講演会開催(会場/女性センターアマカス) 講師/伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長、演題)「男女共同参画社会を考える」…2
	10月 1日	「日曜討論」事務局を日本教育開発内に開設…3
	10月 5日	「FM-MiMi日曜討論」放送開始 コメンテーター確定(小菅1人体制) 収録CD(テープ)贈呈開始…4
	10月25日	「FM日曜討論会大反響」西日本新聞朝刊に掲載…5
	11月 9日	第1回慰労会(梅の花 9名)…6
	12月15日	ライセンスメイト連載開始…7
	12月21日	第2回慰労会(梅の花 9名)…8
平成16年	4月 4日	第3回慰労会(ウォーターリリー 13名)…9
	5月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…10
	8月 8日	第4回 慰労会(花万葉 24名) ※「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」発起人会兼ねる(以下「支える会」と表記)…11
	9月26日	第5回慰労会(花万葉 14名)…12
平成17年	3月 5日	第6回慰労会(花万葉 15名)…13
	4月 1日	日本会議福岡の番組後援決定…14
	4月 3日	コメンテーター増員(香月、伊藤が加わり3人体制へ)…15
	8月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…16
	8月21日	「支える会」設立の集い・懇親会(平和樓 32名)…17
	10月 2日	スポンサートーク開始…18
平成18年	3月 3日	放送局の名称変更(「FM-MiMi」から「StyleFM」)を機に番組名称を従来の「FM-MiMi日曜討論」から「StyleFM日曜討論」に変更 ※これに伴い「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」の名称も「StyleFM日曜討論番組を支える会」に変更…19
	6月20日	「日曜討論かわら版」第1号発行(毎月20日発行)…20
	8月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…21
	8月20日	「支える会」懇親会(テルラホール32名)役員改選、会計年度変更(→総会化)…22
	10月 1日	コーヒープレイク開始…23
平成19年	6月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…24
	8月19日	第1回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール38名) 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」…25
	12月 1日	「日本の息吹」にStyleFM日曜討論座談会記事掲載…26
平成20年	3月 3日	「StyleFM日曜討論」ホームページ開設…27
	7月 1日	「支える会」ホームページ開設…28
	8月17日	第2回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール44名) 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」…29
	9月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…30
	10月 6日	「StyleFM日曜討論」定番広告を新聞他に出稿開始…31
平成21年	6月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…32
	8月23日	第3回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール47名) 江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「偏向報道の連鎖を断ち切ろう!—NHKスペシャル「JAPANデビュー」の偏向報道の裏にあるもの」…33
	12月11日	第1回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(花万葉24名)…34
平成22年	3月 6日	StyleFM開局10周年記念パーティ(JALリゾートシーホークホテル福岡「支える会」から3名参加)…35
	5月13日	産経新聞で「日本に移住は必要か」意見広告掲載…36
	6月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…37

平成22年	8月22日	第4回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール103名) 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化・文明の本質—参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」…38
	10月 1日	「日曜討論」スタジオを日本教育開発内に開設…39
	10月22日	産経新聞で「尖閣諸島は先祖から受け継いだ私たち日本の国の領土です」意見広告掲載…40
	11月 1日	放送局の名称変更(「StyleFM」から「NewVoice」)を機に番組名称を従来の「StyleFM日曜討論」から「スタジオ日本 日曜討論」に変更 ※これに伴い「StyleFM日曜討論番組を支える会」の名称も「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」に変更…41
	11月 7日	従来のラジオ(コミュニティFM)による放送を改めインターネット(ユーストリーム)による放送開始…42
	12月10日	第2回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(松幸40名)…43
平成23年	3月 2日	第1回スタジオ日本専任技術者研修会(てら岡7名)…44
	8月21日	第5回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール82名) 江崎道朗先生(日本会議専任研究員)「マスコミの報じない歴史の真実/開戦70周年〜東京裁判史観の見直しかアメリカで始まった」…45
	9月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…46
	10月 1日	インターネットユーストリームによる放送期間(現在〜平成22年11月)の解説表示付アーカイブ公開 ※動画と音声と文字…47
	11月 4日	産経新聞で「九州電力に感謝し、心から応援します。」意見広告掲載…48
	11月 9日	第2回スタジオ日本専任技術者研修会(松幸10名)…49
	12月 9日	第3回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(松幸35名)…50
平成24年	2月27日	産経新聞で「待望の「日曜討論全番組アーカイブ」14月公開!」意見広告掲載…51
	4月 1日	「日曜討論」全番組アーカイブ公開…52
	6月24日	第3回スタジオ日本専任技術者研修会(花万葉9名)…53
	8月 4日	産経新聞九州総局 野口裕之総局長送別会(江藤家9名)…54
	8月 5日	産経新聞で「福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載…55
	8月 6日	産経新聞で「福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載…56
	8月21日	福岡市庁舎を包囲し、登庁する職員に「産経新聞意見広告(8月5日・6日)」を配布し、覚書の白紙撤回を呼びかける ※7:30〜8:30 10名 1,000枚(A3両面2折) 快晴…57
	8月26日	第6回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール 71名) 小山和伸先生(メディア報道研究政策センター理事長)「反日国家の対日政策に呼応、国家崩壊を目論む内なる敵 反日メディアを糾す」…58
	9月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…59
	12月21日	第4回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 60名) 中山恭子先生(参議院議員)「あの日、あの時。」…60
平成25年	3月23日	産経新聞九州総局 石橋文登総局長歓迎会(花万 8名)…61
	8月25日	第7回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール 58名) 葛目浩一先生(新聞「アイデンティティ」主幹)「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革—東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」…62
	9月 1日	「日曜討論」赤坂スタジオ開設…63
	9月15日	ライセンスメイト「日曜討論特集」発行…64
	11月 1日	「日本の息吹」にスタジオ日本日曜討論広告掲載(隔月)…65
	12月20日	第5回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 50名) 西川京子先生(文部科学副大臣)「教育再生こそ国づくりの根幹」…66
平成26年	4月19日	スタジオ日本日本人講座開講…67
	5月18日	フェイスブックによる番組告知開始…68

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし

番組に出演して

早いもので『日曜討論』も間もなく11年目(平成26年10月)を迎えようとしております。そこで今回は、放送開始11周年を記念して今まで出演にご協力して下さいました皆様のご感想やご意見をご紹介させていただきました。

「スタジオ日本 日曜討論」は毎週日曜日午前10時から12時30分までのインターネット生放送番組として配信しています。番組のURLは、<http://tuoron.l-mate.net>です。または、インターネットで「スタジオ日本 日曜討論」と検索しますとユーストリームのサイトよりご覧いただけます。

※肩書きは番組出演時のものを記載させていただきました。



台湾からの反響に感激

(株)松俵建設 会長

松俵義博(まつたわら よしひろ)さん

私が出演した時の日曜討論の放送を聞かれた台湾の方から、正しい歴史の発信を私たちと一緒にやろうと言われたことがありました。台湾の放送局では民視が正しい放送をしているテレビです。

日曜討論には世界のどこからでも視聴できるというインターネット放送の最大のメリットを利用して、世界中を正しく導いてほしいです。平成26年3月2日の放送で台湾のことを取り上げ、台湾の方たちが100名程聞いて下さり、後日電話で「本当の事を言って下さってありがとうございます。台湾は台湾人のものである。」とのことでした。このような反響も日曜討論がインターネットを通して発信しないと出来ないことでした。日曜討論で台湾の内容の放送をするときは知らせて下さいと言われています。本当にありがたい。これからも長く日曜討論を継続して下さい。



台湾民主化運動の底に見えてきたもの—日本の台湾近代化と「日本精神」の先に「台湾維新」を見る

元私立高校教諭

木村秀人(きむら ひでと)さん

「民主化」が、大東亜戦争後69年、アジア解放後21世紀となって14年、今さらのように問題となっているが、ここに2つの顕著な違いが見られる。シナ大陸、東南アジア、中近東、アフリカに起こった民主化運動が混迷を見せるなか、台湾が鮮やかな存在を見せたのである。民主化を求めて、政権を倒し倒そうとしている国々に、その落ち着き先が見えないのに、台湾には暴力に訴え

る必要のない整然とした運動とその落ち着く先があるのだ。

シナ大陸からアフリカまで、民主化の先にある国の形は未知の領域である。今までに存在したことがないのだ。だから政権の横暴と暴力に抵抗し戦うことは現実に起こるが、これに代わって公正と民度の向上を目指し、住みよい国をつくるということは、全くこれから先の大問題なのである。だから、この住みよい国をつくる「運動」は、日本にしかなかった、ということはこの21世紀の今になって、私たちは目の前にしているのだ。

その住みよい国をつくる「運動」とは、近代化のことである。日本が明治維新以来取り組んだ東アジアの近代化のことである。これが民主化をのせる土台なのだ。民主化に先立って、近代化が必要なのである。

近代化とは、民族に課せられる自己試練である。難行苦行である。少なくとも私たちは、幕末以来、我が国と東アジアで100年以上このことを見てきた。これは、伝統と因習の克服、前世代の既得権益の損傷と放棄、身分制の廃止、文化的精神的葛藤、地域間、部族間、宗派宗教間対立の克服、その他前近代との衝突による諸々の新事態を内包しつつ、行われてきた。血は流れる、得るものもあれば失うものもある。かくして、一国、一民族に共有された土台が、近代化である。だから、共通の土台がなければ、その上に建てられる民主化はあり得ないのであり、当面混乱の收拾は数の多寡か力の強弱で決するしかない。今、アジア、アフリカ、中近東で見られている現状である。

台湾の近代化は、難行苦行をともなって日本時代に行われた。しかし、台湾がこの近代化を、台湾に日本が何をしたのかを知るのには、日本が台湾を去ってからである。昭和20年10月17日、国民党政府軍台湾進駐に際し、台湾の多くの人たちが、支那を祖国として待望していた。彼らはシナを知らなかった。既に近代化され

た頭でシナを考え、日本統治の水準を当然と考えていたからだ。台湾はシナと直面する。シナを、国民党の占領と支配のもとに、台湾は犠牲と損傷の中で、身をもって知る。そして、その苦痛の中で、日本が分かったのである。50年の近代化の意味が分かったのである。もとより近代化の意味がその進行中に分かることはないだろう。「日本」が台湾に結晶したのは、この時であろう。日本もまた住みよい国造りに取り組んだのであって、近代化の全体が分かっていたわけではないだろう。努力がどんな形になるかは、時間の経過を待たねばならず、努力の意味を知るには、振り返る機会がなければならない。

結晶した日本は、「日本精神」としてまもられる。昭和27年12月16日、日本語と台湾語の教学の厳禁の後、昭和62年7月15日戒厳令解除まで、国民党の支配下にも、「日本精神」は脈々と台湾人の中に生き続けた。中華主義の重しの下で、むしろ一層「日本精神」は強力となっただろう。

「日本精神」とは、住みよい国を造る智慧のことである。煎じつめれば「嘘をつかない」、「きれいにする」であり、これを生活の全般、職業の全般、行政の全般に及ぼし、国造りの基本に据えれば、時間と共に豊かな、人情味あふれる国土が自然とできていくのである。これを、民主化というのではないのか。「嘘をつかない」は学問探求、相互信頼、相互研究、立派な人間の育成、国際信義の重視と世界中に尊敬される国造りとなり、「きれいにする」は自身周辺の整理整頓、身の回りをきれいにするように自身の内側もきれいにする生活感覚、潔い人生観、美意識、礼讓、家風の良化、衛生医療、町作り、機能性の向上となる。即ち、人づくり、物づくり、国づくりの基本である。だから、「日本精神」とは我が国の国柄のことであるのは勿論である。

台湾は、国民党の40年余にわたる反日教育によって台湾の近代化を歪曲され、直近の歴史の根を切られていたが、民主化によって自分たちの歴史を取り戻し、反日の虚構を脱した。素直に自分たちの来し方を見れるからには、行く先を虚構の上に見誤ることはない。自信をもって分かるというものである。日本、韓国、北朝鮮、中共が未だ嘘の反日近代史を教えている中で、台湾は戦後東アジアの虚構世界を後にして突出したのだ。この突出は、日本が146年前、前近代の東アジアから新国家建設を目指したのに似ている。大清国を破りロシアに負けることなき国を作った維新は世界史の奇跡となった。同じように、「日本精神」の台湾は、台湾維新をその民主化の結実として21世紀にその名を印すだろう。明治維新後1世紀半を経て再びシナ中共に負けざる小さな巨人となるからである。

台湾の力は、国民党の反日教育の中で分裂していたが、民主化の進展とともに100パーセント発揮されてくるだろう。その「台湾力」が世界に確固たる不動の地位を台湾にもたらすだろう。障害はただ一つ、シナである。中共の策謀、容喙である。再び虚構世界に連れ戻すため反日教育を目論み、日本による台湾の近代化を否定しようとする歴史教科書の作成計画が、政権の動向とともに中共を背後に、進行中である。スタジオ日本日曜討論、慰霊訪問団の使命、いよいよ重し。



10数年ぶりのご無沙汰です！
番組開始当時を思い、
貢献の大きさに敬服
宗教学人新生佛教教団副代表役員、
『日本時事評論』編集委員
山口敏昭(やまぐち としあき)さん

「日曜討論」が11年目を迎えられるとのこと、おめでとうございます。そして、良質な情報、視点を発信し続けてこられたことに衷心より敬意を表すとともに、今後も継続して番組を続けられることを強く希望します。

さて、私と「日曜討論」との関係は、まさに11年前、番組を始めるに当たり男女共同参画をテーマにしたいと小菅玄三郎代表世話人にお声掛けをいただいた時に始まります。当時は、男女共同参画に仕組まれた日本破壊・家族解体の仕掛けについてまだまだ認識が薄い時で、まさに制定されようとしていた福岡市の条例案の是正をしたいとの小菅代表世話人の見識に感激し、初回から3回続けて番組に出させていただきます。

その番組の反響は大きく、条例案に埋め込まれた偏向思想の存在を保守の市議員さんも認識されるに至り、良識的な条例への是正をすることができました。市長の諮問機関である懇話会が出した答申に惑わされることなく、市議会が福岡市の特性にあった条例に修正して制定させたことは、福岡市政史にもなかった快挙ではないかと思います。それが、国の男女参画行政見直しにも波及したことは、「日曜討論」が果たした成果の一つとして誇っていいことだと思います。

そして今、男女共同参画行政の問題は解消したかと言えば、そうではありません。昨今、マスコミを賑わしている配偶者控除撤廃も、実は共同参画の背後にあるフェミニズム思想、端的に言えば家族解体を目指す運動の一環でもあります。先般、西川京子文部科学副大臣とお会いした時、偏向教育の象徴の一つでもある男女混合名簿を、男女別名簿に戻す取り組みをお願いしました。西川副大臣は、10数年前に一緒に手がけた男

女共同参画の是正運動を懐かしく思い出され、「そうでしたね。自民党の若い議員にも、今一度、伝えないといけませんね」とおっしゃられました。残念ながら現在の国の第三次男女共同参画基本計画は、福島瑞穂氏らの手によりフェミニスト色に完全に染まり、まるでシロアリのように日本社会を蝕んでいます。

人は知識を与えられて意識も生まれます。正しい知識があつてこそ、正しい判断もできます。それだけに、改めて男女共同参画の課題や家族解体施策について取り上げていただきたいと思いますし、何より「日曜討論」が引き続き正しい情報、知識の発信基地として、よりよい地域づくり、国づくりに貢献されることを心よりご期待申し上げます。



カーラジオから始まった「日曜討論」との出会い

九州伝承遺産ネットワーク特別顧問
原田泰宏(はらだ やすひろ)さん

カーラジオをつけ面白い番組がないかと選局していた時に突然アナウンサーではない感情丸出しの、一見して素人とわかるおしゃべりを聞いたのが私と日曜討論の出会いです。その時の正確な内容は覚えていませんが、マスコミ始め、巷では聞くことができない、中韓が日本を貶めるための捏造話の嘘を暴く、本当の事が話されていました。こんな貴重な話が聞ける番組を逃してはならないと、最後まで聴き入り、放送局名、番組名をもしっかり記憶し、以後日曜日を待ちわびる日々が続きました。

その後、思いがけず日華(台)親善友好慰霊訪問の感想を述べるため番組に出演する荣誉を与えられ、つい最近、番組の司会を仰せつかるなど、情報受信者から情報発信者になりました。私のように、日曜討論で真実の事を知り、反日教育や反日報道から覚醒し、先祖や日本を愛する日本人に帰る人を取り戻す手段として、また「誇りある国づくり運動」としての発信情報である「日曜討論」は益々重要になってきます。

この「日曜討論」の最大の価値は平成15年から生放送にて継続してきたことにあります。

出演者や番組維持に努められている皆様は、少なからず私用をも犠牲にして公のため、「誇りある国づくり」に貢献されています。この継続の力が多くの人に日本の真実を覚醒させつつあると思います。

今後も一人でも多くの方が反日の呪縛から解放されるように、真実を伝える情報の発信に微力ながら尽力していきたいと決意するものです。



NHKは「日本破壊協会」である 元会社員、元公益法人職員 吉田重治(よしだ しげはる)さん

自然権である自衛権は、本来、個人や国家や個別や集団の区分は無い。まして自然権の自衛権に「権利はあるが行使できない」や手枷足枷の限定条件賦課は根本的・本質的に的外れ論議である。J君と親友A君の同行中に暴漢C、Rが親友A君を襲撃する危機事態発生時にJ君が『J家の家訓は共闘不可なのでA君よ、条件付共闘可能な家訓改定後なら助けられるよ』とJ君の拱手傍観はJ君とA君の人間関係破壊であり、A、J共に暴漢C、Rに殺傷される。J国とA国の共同行動中のA国へのC国、R国の攻撃に対し、J国の拱手傍観はA国との同盟関係を破壊し、J国は世界の信頼を喪失し、J国が暴虐なC国、R国の侵略に曝される事態に救援共闘国は皆無となる。国家の同盟関係は親友関係と同型の単純明快な論理である。

憲法改正猶予のない危機事態発生に備える「憲法解釈見直し集団自衛権行使限定容認」(以下「集団自衛権行使」と略記)の最小限の防備にさえ抵抗する勢力は「集団自衛権行使限定否認で国滅ぶ」を知悉の上で敢えて「集団自衛権行使」抵抗へと日本国民を煽動し、嘘導する。「集団自衛権行使」抵抗勢力＝護憲勢力の構図があり、護憲勢力の信奉する現行憲法は連合国が「日本国無力化・日本人骨抜化」を狙い、旧教育基本法とセットの日本人専用調教・飼育用「檻」であり、現在も猶、日本占領基本監理要綱の常態である。「憲法改正・集団自衛権行使」への抵抗勢力の言動は調教・飼育の代表的な「平和空理空論」洗脳効果であり、未だに呪縛から覚醒できず脱却できていない異常な態様である。

憲法前文に「日本国民は、…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した…」とある。ウクライナに条約で譲渡したクリミアを武力で侵略強奪して日ソ中立条約破約を再現し、侵略国家の本性を自ら実証したロシア、東シナ海・南シナ海での侵略行為の暴虐・悪辣な中共、核ミサイル・拉致のテロ国家北朝鮮、歴史の捏造・歪曲で歴史戦争を挑む韓国を「集団自衛権行使」抵抗勢力は「平和を愛する諸国民」で「公正と信義」を信頼し得る国家と考えているのであろうか。また「集団自衛権行使」無して憲法本文の「国民の生命、財産を守る」が保障できると考えているのであろうか。否、「集団自衛権行使」抵抗勢力は日本国民が「集団自衛権行使否認で国滅ぶ」ことや中共、ロシア、北朝鮮、韓国が「平和を愛する諸国民」でなく「公正と信義」を信託し得ない国家であるこ

とへの覚醒や認識を阻止したいのである。

「集団自衛権行使」抵抗勢力は中共、ロシア、北朝鮮、韓国を心の祖国と仰ぎ、中共やロシアの日本侵略支配を渴仰し、中共東海省或は日本族自治共和国での絶対権力を熱望する売国奴勢力であり、中共やロシア等の走狗・工作員と言っても過言ではない。戦後漸くの真の安倍政権の国防力強化は「集団自衛権行使」抵抗勢力の渴仰する心の祖国中共やロシアの日本侵略支配実現の障害と見做し、安倍政権を悪者に仕立上げ、打倒するために日本国民の洗脳に躍起となっている。特に「集団自衛権行使」に過激な反対勢力の朝日新聞、毎日新聞、東京新聞やNHK放送センター内に中共中央テレビの支局を開設させているNHK等の売国マスコミは中共、ロシア等の走狗・工作機関と言っても過言ではない。

日本国民は「集団自衛権行使」抵抗勢力の洗脳操作による謀略を診抜かねばならない!また「集団自衛権行使」で政教一致の本質・本性を露呈し、与党でありながら執拗で頑迷な抵抗をする公明党は「獅子身中の害虫」且つ「トロイの木馬」の売国政党で日本亡国が究極の狙いである。安倍政権は売国公明党と訣別し、石原分党、みんなの党との連立組替内閣にするべきである。

処でNHKはGHQの占領接收第1号であり、GHQニューディール派[国際共産主義者集団]の洗脳操作による「真相箱」等の捏造歴史放送で日本国民の洗脳を開始し、「朝の連続テレビ小説」や「大河ドラマ」で歴史事実の隠蔽・歪曲・捏造により日本国民の洗脳操作を現在も継続している。「花子とアン」の主人公村岡花子を虚偽で美化し、人類を極致の不幸に陥らせた社会主義を美化し、筑豊の炭鉱王伊藤伝右衛門を貶める洗脳操作の放送法違反を堂々としている。安中花子は1919年、福音印刷合資会社経営者村岡徹三と不倫の末の結婚で村岡花子になった。村岡徹三は賀川豊彦の妻賀川ハルの従兄妹であり、キリスト教社会運動家賀川豊彦(1888~1960)はキリスト教を隠れ蓑にした偽装平和運動「神の国運動」の日本側代表者であり、ロックフェラー財閥からの謀略資金を受領しに訪米していた工作員であった。偽装平和運動「神の国運動」は、大東亜戦争を予定して開戦後は当該組織を日本国内の米国の諜報組織とし、諜報者の育成組織とした。村岡花子はキリスト教婦人矯風会に属し、ロックフェラー財閥⇔賀川豊彦⇔賀川ハル⇔村岡徹三⇔村岡花子⇔日本国内の米国諜報組織網で謀略資金・機密情報収集活動を行った売国奴工作員であり、児童文学者はそれを偽装する隠れ蓑であった。斯かる罪業深い売国奴村岡花子の正体を隠蔽・捨象して善良な日本国民を洗脳す

るNHKは真正にNippon Hakai Kyoukai [日本破壊協会]である。新経営委員会、新会長は売国政党等に怯まずNHK等の大改革を断行しなければならない!!



4回にわたり連続出演 自由主義史観研究会 理事 杉本幹夫(すぎもと みきお)さん

日曜討論開始以来、間もなく11年目をお迎えになるとの由、山あり、谷あり、色々のご苦勞を乗り越えられた事を、まず慶賀申し上げます。

私が「植民地朝鮮の研究」を出版したのが、平成14年ですから、私も気負っていたのでしょうか。4回にわたり連続出演させて頂きました。有難うございました。丁度金完變の「親日派のための弁明」の発行と時を同じくしたのが幸いし、思った以上に売れ、この会にも呼んで頂くことになったと思います。更に金完變が韓国語に翻訳出版してくれた事も思い出されます。彼は群衆に暴行され、オーストラリアに避難したと聞きましたが、その後どうされたのでしょうかね。

私が60歳を超え、このような事を勉強しようと思ったのは、朝日新聞の従軍慰安婦キャンペーンがきっかけでした。朝日新聞とはひどい新聞社ですね。植村記者のような人を重用し、捏造記事を書き続け、日韓関係をどんどん悪化させたのですから。更にこれに追随したのがNHKです。今度の会長交代で多少でもよくなれば良いのですが。今北朝鮮が指導者の交代により、中国とも関係悪化、日本との連携模索の動きが感じられます。一方韓国は中国と接近、反日に向かっていくように感じます。両国が共にマルクス主義の呪縛から解放され、真実の歴史に目覚め、共栄の道を目指す時代が来ることを祈ります。終わりにこの日曜討論が益々発展される事を祈念します。



日本国憲法を改正して 我国を守ろう! 医師 若杉英之(わかすぎ ひでゆき)さん

皮膚は身体の表面を覆い、粘膜は身体の内面を覆う身体と外界の境界線であるので大事である。嗽をして風邪を引かないようにする、便秘をしないように心掛ける(癌は粘膜から発生する。)国境線を護るのと同様である。

1281年、元が攻めてきた(「四百余州を挙る 十万

余騎の敵 国難ここに見る 弘安四年夏の頃 なんぞ怖れんわれに 鎌倉男子あり 正義武断の名 一括して世に示す 永井建子 作詞作曲「元寇」。壱岐・対馬は無茶苦茶にされたが、博多湾で食い止めた。日蓮上人が国防の重要性を日本全国で説いて廻って準備したのだ。防塁が今も生の松原に残っている。鎌倉武士が博多に馳せ参じて戦った。東公園には日蓮の立派な銅像が建っている。皆が一致協力したので、神風が起り元軍は全滅した。

「天は自ら助くる者を助く」自分の国は自分で守らねばならない。自分の家は自分が守らねばならない。当然のことである。

福岡県出身の松口月城の詩吟「吾は天年」は次の如く「鶴は千年 亀は万年 人間の寿命は是天年 天を敬い己を尊び宜しく修養すべし 矢の如き光陰 年を返さず」。人間の寿命は120年が極限といわれているが、神様がお決めになるのであって私共は一層懸命に努力すれば良いと仰っておられる。



知覧の桜

川崎町議会議員、シンガーソングライター
櫻井英夫(さくらい ひでお)さん

去る5月4日、福岡縣護國神社において第2回特攻兵士戦没者慰霊祭が挙行され200名以上の方々が参列されました。私も昨年に引き続き参列させて頂きました。博多の町はどんたくで賑わっていましたが、慰霊祭会場はNHK野外ステージの喧騒とは対照的に厳粛な雰囲気包まれていました。参列者一同、戦没者の犠牲の下に現在のたくましい日本国がある、との思いを新たにしました。今回、記憶に残ることが二つありました。

一つは、日本会議の会員でもある高瀬氏が「知覧の桜」を作詞作曲し、アカペラで歌って捧げたこと。上手下手を超えてただただ戦没者の御霊を称えようとする高瀬氏の心意気にいたく感動しました。紙幅の関係で1番のみご紹介します。

知覧に桜が咲くときに 花ならつぼみ少年の
つくる笑顔の心中は 男は何処に生くべきか
未練をおさえ強かりの 別れの手紙切々と
心の苦悶を振り切って 不惜身命一途のけなげさよ

実は不惜身命は、平成23年統一地方選挙川崎町議選の私のスローガンでした。そして、本当に命を落としそうになりましたが、来年27年も再び不惜身命で選挙

に望みます。もう一つは、旧日本兵が戦地で無くした寄せ書き入りの日の丸が米国から帰国し、所有者の遺族を探しているとの紹介があったことです。所有者は田川農林高校出身で、当時の校長の名前が記されています。検索に一役買おうと田川農林同窓会役員宅を早速尋ねました。結果は、卒業名簿に記載があるのでたぶん戦死ではないが、所在は不明との事でした。原爆を落とされ敗戦した日本。鬼畜米国に感謝の心？そんなお人よし日本。やせても枯れてもこの国の武士道精神を廃れさせてはならない。



「日曜討論」は左翼マスコミの解毒剤

会社員
前田博親(また ひろちか)さん

冷戦時代の米ソ対立の陰で、日本は対峙する直接の脅威から免れていた。ソ連崩壊後22年を経て、世界は冷戦時代にもなかった新たな厳しい緊張の時代へ突入している。ロシアと中国軍の東シナ海共同演習に見られるように、中露の新たな接近が進めば、世界は大乱の時代に突入する危険性さえ生まれている。しかし多くのマスコミ、日本人の「ダチョウの平和の感性」はほとんど変わることが無い。他国では議論にさえならない国家固有の権利、集団的自衛権さえ限定解除を許そうとしない左翼マスコミと、それに煽動される国民性に切歯扼腕の日々が続く。

マスコミが決して語らない政治、歴史の事実を丹念に細かく粘り強く訴える「スタジオ日本 日曜討論」には、こうした左翼マスコミへの解毒剤となる努力を今後も期待したい。



日曜討論番組を支える会の更なる結束を

日本会議福岡時局(憲法)部会
阿部定男(あべ さだお)さん

ことわざの中に「同じ釜の飯を食う」という名言があります。家族でなくても、いつも食事を共にした親しい間柄であることを言う。日本の行事の特色は、お正月、お花見、旅行など家族・親戚・帰属の集団で共食を伴うことが多い。「同じ釜の飯を食う」という共食行為の由来は、昔から日本人が神様に捧げた供え物をお下がりとしていただいたり、また仲間と一緒に同じものを食べて、心を開き、互いの繋がりを深めてきたことにあります。

この日曜討論番組を支える会も、平成15年の放送開始以来10年が経過しました。この間一回も欠かさず、また番組で取り上げたテーマは、憲法、教育、皇室、歴史、防衛、領土領海、台湾、中国、韓国、男女共同参画、家庭、子育てなど幅広い分野で放送されてきたことの凄さに感銘致しました。これも出演された方々の豊かな経験と卓越した英知と、また小菅先生、香月先生を始めとした事務局関係者の苦勞と行動により、会員の気持ちも許しあう身内関係ができあがり、結束意識を強くしたことも一因と思います。

さて、近年わが国の内外の諸情勢は、国際的には人類の生存にかかる地球温暖化問題をはじめ、依然として終息しない「テロ」や民族抗争、更には核廃絶の理想とは程遠いイランや北朝鮮などの核拡散の動向、ロシアによるウクライナ、クリミア編入問題、更には中国は尖閣諸島周辺での領海侵略を繰り返したり、南シナ海での一方的な海洋進出でフィリピン、ベトナムと対立するなど、行く先不透明な多くの未解決の問題を抱えています。

国内においても、かつてない少子高齢化社会の到来、更にはあってはならない残忍な事件の頻発や心の羅針盤を失った青少年の非行の増大などのさまざまな問題を抱え、将来への漠然とした不安が渦巻いている状況にあります。

このような不透明で混沌とした時代に備え、これからも結束して、誇りある日本のために良き伝統を伝えていかれるよう、「日曜討論」の今後の益々の発展を心から期待しております。



劣位戦から優位戦思考・ 行動への発想転換

行政書士

中山 茂(なかやま しげる)さん

まずは、日曜討論における関係各位のご尽力・ご活躍に心より敬意を表します。今後とも、ますますのご健闘・ご発展のほどお祈り申し上げます。

さて、「優先戦思考」という言葉は、日下公人氏の著書「優位戦思考で世界に勝つ」より引用したのですが、その主張にいたく共感を覚えましたので、以下にご紹介する次第であります。

日下氏は優位戦とは、こちらが主導権を握って戦場を選び、時を決め、戦争の目的も手段も決められる戦いのことである、と定義しています。その反対が劣位戦であり、大方の政治家、マスコミ、外務省の官僚などはそこで暮らしてきた人だとしています。具体的な一例として、安倍首相が精力的に実行している地球儀外交が、まさ

に優位戦思考に基づくものであるという解説であります。

なお、この思考法は何も国家間の問題だけでなく、人生において、例えばビジネス、スポーツ、団体活動等の場にも応用できる、有効な意識の持ち方であると納得いたしました。昨今、中国及び韓国の言動は、わが国に危難を及ぼす反日国家であることがより明瞭になりました。わが国は、彼の国とは長期戦を覚悟し、基本的に心理面において優位戦思考で対応するとともに、情報、言論及び行動面においても、積極的に優位性を確保する必要があると痛感しているところです。



「日本を取り戻す」ために 「歴史戦争」を戦い抜こう 新聞「アイデンティティ」主幹 葛目浩一(くずめ こういち)さん

今、わが国は歴史認識をめぐる中国、韓国による国際社会を舞台にした、謂われのない誹謗中傷攻撃に晒されています。歴史認識戦争という、祖先の名誉と子々孫々の生存をかけた戦いに臨む我々日本国民に求められるのは、自虐史観、加害者史観からの脱却と、日本は大東亜戦争によって、戦いには敗れたが、数百年にわたって奴隷のような虐げられたアジアの民を解放したという正しい歴史観を回復することです。しかし、この戦いにおいて最も警戒すべきは外部の敵ではなく、獅子身中の虫・朝日新聞、毎日新聞を代表とする反日メディアの存在です。6月20日、政府が公表した、平成5年の河野洋平官房長官の「慰安婦募集の強制性」を認めた談話の作成過程の検証結果は、従軍慰安婦の「強制連行」を認めた河野氏の不用意発言と談話作成に当たり韓国と調整を行ったことに対する隠蔽工作を明らかにしたものでした。

しかし、忘れてはならないのは、この河野談話を導き出した元凶は、詐話師・吉田清治の著書『私の戦争犯罪』を元にして報道した、平成3年の『朝日新聞』植村隆記者の「女子挺身隊、強制連行」捏造記事であったことです。当の朝日は、訂正記事を出して反省するどころか、今日なお、特定秘密保護法、集団自衛権問題などで反国家的言論を振りかざしております。私は、平成25年8月の「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」総会で、「ミニコミ紙が出来る戦後秩序の変革」と題して講演させて戴きました。正しく、偏向・反日メディアによって醸成された戦後秩序を変革するのは、スタジオ日本のような地域の愛国者による放送メディアと、手前味噌で恐縮ですが私共の保守系のミニコミ紙、そして『産経新聞』のような真っ当な全国紙です。皆様とご一緒に「日本を取り戻す」ため「歴史戦争」を戦い抜く覚悟です。



国民よ激動の今を知れ

健康塾経営

井上和彦(いのうえ かずひこ)さん

中国の独善的行動は目に余る。

国内には多くの問題を抱えていると言われているが、それをそらすため、反日の戦略をたて日本を叩くことに徹底する。慰安婦の問題をユネスコの記憶遺産に申請するとのことであるが、一方では日本の自衛隊機に20mまで接近し、逆に中国側が抗議してくる等傍若無人のやり方である。国民の一人としては絶対許せない。ところがあるグループは憲法9条を守る大会を開いて戦争反対をコールしている。集団的自衛権行使反対といえば、文化人と勘違いされておられるのではないのか。中国も韓国もそこらあたりをみているのではないか。マッカーサーの占領政策で日本人はキバを抜かれたライオン、即ちネコにされたのではないのか。

一日も早く憲法を改正し、普通の民族・国家になればならない。中国・韓国の共通認識を逆手にとって一歩も引かない主張を展開すべきである。国内的には一日も早く憲法を改定し、日本人の魂、心、文化等を取り戻すことであり、「国体観」「教育観」を確立することである。今回の集団的自衛権行使の取り扱いで最後まで公明党は反対した。これは憲法改定にも同じ結果が出るのではないか、危惧の念を持つものである。公明党は飯島参与の言葉に表れているのかも知れない。今の政治に必要なことは、国民一人一人が目をしっかり見開いて、真実を捉え対応していくことである、左翼的マスコミに乗せられないよう責任ある行動をしていくことである。



恐怖の悪法「中国民事訴訟法231条」「国防動員法」

会社役員

廣瀬 勝(ひろせ まさる)さん

中国で誠実に企業活動を行いながらも、不幸にして中国人従業員による経済犯罪に遭遇する企業は大企業から個人企業まで規模を問わず無数にある。台湾企業の被害件数だけでも1990年から2010年までで6万件を下らない。日本では経済産業省、JETROを含め、かかる被害実態を調査し、中国投資に警鐘を鳴らす行政機関、マスコミは皆無である。世界でも類を見ない中国による企業財産の略奪。中でも奪取された損害を完全なものにする恐怖の悪法が中国民事訴訟法231条(出国の自由を制限する)、国防

動員法(企業財産の徴用を合法化)である。この中国共産党の悪質な経済政策に焦点を合わせ、国民に広く知らしめようと努力されている小菅玄三郎代表と日曜討論に深く敬意を表したいと思う。



日本人の誇りを再認識

会社員

桐野隆徳(きりの たかのり)さん

6月20日、河野談話の検証結果が発表されました。談話の基

になった調査に作為があったことが報道されていましてので予想された通りの検証結果でした。勿論、これを機会に従軍慰安婦の真偽にまで言及して欲しかったのですが、結局、談話の中身は否定されたものの継承はずるといった分かり難いものになりました。

そもそもの発端は先日安倍首相が「信念を少し丸めて、その場を取り繕っても、後々大きな禍根を残すこともある」と答弁したように誤った考えから発しており、日本は人権問題を引き起こす国というプロパガンダを展開したい韓半島の団体が談話を利用し、強く出れば日本から譲歩を引き出せるという誤った韓国人の考えが乗りかかっています。問題の根には、日本に人権問題があるかのような発言を繰り返すことで、日本の対外イメージを陥れ、韓国の優位性を作り出すという悪意に満ちた行為が青瓦台を先頭に行われていることです。メディアを活用した情報戦は日々行われています。しかしながら私たちが接するのは、捏造の編集の危険が多分にあるものです。気がつかないうちに贖罪意識と自虐史観を植え込まれる危機にさらされています。

日曜討論では、こうしたプロパガンダで植えつけられた贖罪意識と自虐史観を崩し、日本人の誇りを再認識させてくれます。「テレビばかり観ているとバカになる」と言われながらもテレビを視聴続け、プロパガンダの格好の餌食になっていた私などは、日曜討論の通の視聴者が当然とされるであろうことも、斬新な響きがあります。勿論そうした策略もよくよく見れば、事実も証拠も根拠もなく、ただただ声大きいだけ。そこに気づくまでに何と遠回りをしたことか。放送は2時間半あり、テーマが中途半端に終了することなく、加えて数回にわたって同一テーマが取り上げられる為、正直難しいテーマも放送をきっかけにある程度の理解を持てるようになってきているようです。今後の放送の展開も期待しています。



番組に寄せられた リスナーの声



■平成25年6月16日到着分…407
日曜討論御中

筑後の湘南ボーイより
香月先生 川口先生、おはようござ
います。

中華人民共和国がなにやらまた
尖閣諸島に監視船を派遣している
ようですが、この国は言っていること
とやっていることが全く違い、本当に
国連常任理事国なのかいつも疑問
に思っています。トラブルメーカーで
あり国際紛争常任当事国ではない
かと言いたくなります。

中国もサイバー攻撃の被害者だ
などと習近平主席が言ったらしいで
すが、これも言っているだけでしょう。
サイバー攻撃に関しては人民解放
軍筋はアメリカの軍事衛星で12個
の対象となる衛星を中国軍が機能
不全に陥れるか、撃墜できればアメ
リカ本土を核ミサイルで攻撃でき
るとか言っているとか。ほとんど妄想に
近いことを真剣に言っている。

日本でも野中・古賀両氏の尖閣
諸島棚上げ合意論を毎日新聞系列
などが盛んに宣伝しています。日本
はカナダやオーストラリアのよう
になるような感じがします。CCTVい
わゆる中国中央電視台の洗脳作戦が
功を奏しアメリカまでそうなりつつ
あるような気がします。しかし、中国
は毒餃子事件をうやむやにしました
し、PM2.5についても国際的に何も
コメントしていないでしょう。特に日
本には謝罪しませんよね。ふざけて
います。

韓国についてはあの通貨スワ
ップは全面的にやめるべきだと思
います。竹島を返さない限り敵国です。

香月先生、日本のマスコミは通貨
スワップも人民解放軍将校の暴言
も伝えてくれません。先生のお力で
このひどい日本のマスコミを何とかし

てください。川口先生のブログ、読ま
せていただいております。経済や国
際関係の示唆に富みます。お二人で、
ぜひ日本の現代史のリーフレットを
書いていただきたく思います。

■平成25年7月7日到着分…415
シナ・韓国は同じアジアの友人では
ない!

カルロス タグチ
香月先生、萩尾様、岡田様、美人・中
実さん、そして日曜討論スタッフの
皆様おはようございます。

日本再生に休日なし!!早朝から
大変にお疲れ様です。さて今回の日
曜討論「韓国は叩け、さもなくばつ
けあがる」…なんと的を得たタイト
ルでしょうか!

韓国という国について、私たち日
本人はどういう対応が必要な
のか?まともな議論どころか論点
が何もない言いがかり民族に対
してどんな治療が必要な
のでしょうか!!

最近では日韓併合の功労者であり
ます伊藤博文閣下を、韓国の一級
犯罪者として「銅像」を作る記事
が載っておりました。何を考
えているのか。はらわたが煮え
くり返ります!

本日の放送内容をお聞きしまし
ても韓国に対し怒りしか出てき
ません!!このままでは歯止めが
効かず、大人しい日本人は完全
に負けてます!!韓国の国ごと
精神病院に入れてしまったら
どうでしょう?? 駄目
ですか?? <(_>

それでは、8月4日の英霊顕彰
大会でお会いしましょう。

■平成25年7月28日到着分…419
日曜討論の皆様へ

名もなき石ころより
今朝も朝から楽しい(?)正しい放
送ありがとうございます。日本は朝鮮

や台湾でどれくらいインフラ整備
しているのか、鉄道・エネルギー
問題等を整えているのか、今の
発展は日本が基礎を作ったから
だということ、これは日本国内
で教育していれば、しなければ
いけなかったことであるとい
えますね。これは国がしなければ
ならないことです。このことが
分かれば、日本人はどれだけ稼
いだか、どれだけすこかったか。
やっぱり外地に投資しすぎて、
国内に回っていなかったのか
とも思っています。その上、戦
争までしたのですから…。す
ごいとしか言いようがありません。

◎教育勅語に思う(小菅玄三郎代
表世話人への手紙から)

番組会員 鳥井幸子さん
10月も半ばというのに、じわ
じわと汗がにじんでまいります。
でもここ一兩日、朝夕はやつと涼
しくなっております。ご無沙汰
ばかりしています。今日は久々
にペンをとります。

申し遅れましたが、「日曜討論
かわら版」常にお送り頂いてあ
りありがとうございます。皆様
方の愛国心には私の胸を打つ
ものがあります。特に小菅様の
情熱は頭の下る思いです。小
菅様は教育勅語を大切になさ
っただけでいらつしやること
を思い出します。今月は発令さ
れて123年になりますネ。教
育勅語と言え、学生時代、校
長先生が奉安殿より、黒塗りの
盆の上に詔書の入った箱を目
線より高く捧げながら、高台
に上がり、生徒全員に朗々と
読みあげた後、奉安殿に納め
訓話のあったことを思い出
します。長いこと忘れ去って
いた「教育勅語」。近頃はよ
く口ずさみ総ての言葉の意義
の深さを感じ日本人は斯く
あるべきだと思っています。

半世紀前迄は、人としての道を守り、日本を大切にしてきました。それは過去の教育がまだ多くの人びとに生き続けてきたからでしょう。教育は字の如く教育てなくてはなりません。邪道であってはならない。親はわが子に幼い頃から善悪をしっかり教え学校に送りだしていた。しかし、今はどうも親の態度に欠陥があるようです。学校現場では教育勅語を基本教育とした日本の心が失せている。その結果が現在の親の姿とも言えるのではないのでしょうか。

人は多くの人びとに支えられ生かされている。感謝の心を培い生命の大切さを教える義務があることをなおざりにしていると思われぬ。

教育の基本は教育勅語にあることを訴え、早く日本教育を立て直して下さるようお願いいたします。

“戦前、戦中、戦後を経験してきた老母より”



鳥井幸子様より
「支える会」に寄せられたお手紙

◎日曜討論かわら版について

番組会員 佐谷正幸さん
第84号(9月20日)本日受領しました。巻頭挨拶には毎号大変良いことが簡潔に書かれています。今回、第4段落の「規制緩和と独自性の調和」は極めて重要です。あくまで日本の制度や慣習などによって守られている我が国の良さを維持する必要があります。同感です。全てに規制は必要です。このオリンピックに際しての規制について昔から日本に適切な言葉(不文律)があります。「郷に入っては郷に従え」です。日本人が外国に行っても同じ事です。これを

使ってください。

アーノルド・トインビーが、日本の文化を今後発展すべき第3文明と激賞しています。安易に外国文化と混合しないことです。私は当地で市に陳情するときは「住みよい筑豊の会 代表」と名乗ることがあり、「住みよい社会とは秩序ある心豊かな社会」と定義しています。毎号、有難うございます。

■平成25年12月29日到着分…435
お疲れ様です

産経応援

鬼木先生、木村先生お疲れ様です。

昨年の衆議院選、今夏の参議院選、アンチ民主、保守圧勝・安倍ムードの流れの中で、ある日突然「保守・愛国」を名乗り、議員バッチを得た方々を私たちは見逃してはいけません。鬼木先生は「保守」とは何か、「保守政治家」はどうあるべきか、県議時代より、真剣に取り組まれた方です。益々、日本と日本国の為にご尽力下さるようお願い申し上げます。

■平成25年12月29日到着分…436
鬼木議員さん

愛国老人

次の選挙で再選されるかどうかよりも、議員としての責務を第一と考えてNHK問題を取り上げたことのお話、感激しました。国会議員の地位ではなくて国会議員の責務が第一との信念をいつまでも持ち続けて活動されることを切に願っています。

■平成26年1月5日到着分…437
スタジオ日本 日曜討論御中

名もなき石ころ

こんにちは、久しぶりに聞いてみたら西川京子先生の出演だったので、驚きと共に釘付けです。

日本のため、私達の子供のため働いて下さってありがとうございます。そこいら中の女々しい男より頼りにしています。娘の中学教科書をもう一度見て勉強なおします。水間政憲

先生の「目でみる 戦前の日本」を見て広めたいです。

■平成26年2月2日到着分…441
日曜討論の皆様へ

いつも見ている人

李鴻章の言葉で「わが国は貴国の『散兵戦』に負けた」というのがあります。下関条約の席上での発言ということですが彼はこうも言っています。支那兵は散兵戦を命じられると家に帰ってしまう。異国の原野で相互に連絡もとれない状況で開始時の訓辞と意思統一のみで前進していく歩兵の強さを支那兵はとてもち合わせていなかったのでしょうか。

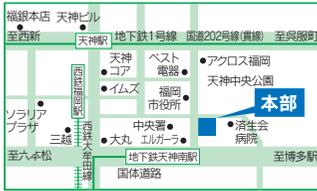
■平成26年3月2日到着分…443
松俵さん

かよ

今月28日、再び日本からのグループが特別この記念日に参加して下さいました。本当に感謝しています。2月28日の歴史は台湾人に深い傷と共に刻まれています。台湾は台湾人の国家であり、中国とは関係ないのです。

松俵さんに台湾に同意して下さり、感謝致します。そして、松俵さんの台湾の精神を支持しようとして下さる姿勢を私たち台湾人はとても感謝していますし、八田與一への感謝は言葉では言い尽くせません。有難うございます!

松俵さんの心から、お金、時間、体力という犠牲を払ってまで、台湾を支持しようとする態度に私たちは、とても感謝しています。日本人の団結精神と文化に私たちは本当に敬服致します。そして、日本文化への理解が深まっていくと、私の日本への興味も深まっていき、益々頑張って日本語を勉強しようという動機付けとなります。私はこの台湾で、特別あなたの日本、日曜討論の番組を見たいです。私は、もっと台湾と日本が手をとりあって協力し、日本人の崇高な精神(例えば、八田與一の人生など)を共に学んでいくことを希望します。



スタジオ日本 日曜討論番組を 支える会

●事務局 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX (092)725-3190

URL <http://touron.l-mate.net>
Eメール touron@l-mate.net

